

日々のあゆみ 第二集

アンドリュー・マーレー

主は生きておられます！

御霊も同じようにして、

弱い私たちを助けてくださいます。

私たちは、どのように祈ったらいかわからないのですが、

御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、

私たちのためにとりなしてくださいます。(ロマ8・26)

どうか、望みの神が、あなたがたを信仰による

すべての喜びと平和をもって満たし、聖霊の力によって

望みにあふれさせてくださいますように。

(ロマ15・13)

この希望は失望に終わることがありません。

なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、

神の愛が私たちの心に注がれているからです。

(ロマ5・5)

The believer's new life

by Andrew, Murray

Copyright (c) 1965° 1984

Published by Bethany House Publishers

目次

14章	聖潔 聖さ.....	3
15章	義.....	9
16章	愛.....	17
17章	謙遜.....	23
18章	つまずき.....	30
19章	イエスさまが守ってください.....	34
20章	弱さの中の力.....	40
21章	感情による生活.....	44
22章	聖霊.....	48
23章	聖霊の導き.....	54
24章	聖霊を悲しませること.....	59
25章	肉と聖霊.....	63
26章	信仰による生活.....	68

あなたがたはみな、心を一つにし、同情し合い、兄弟愛を示し、あわれみ深く、謙遜でありなさい。

悪をもって悪に報いず、侮辱をもって侮辱に報いず、かえって祝福を与えなさい。：舌を押えて悪を言わず、くちびるを閉ざして偽りを語らず、悪から遠ざかって善を行ない、平和を求めてこれを追い求めよ。

(1ペテ3・8、11)

愛する者たち。私たちは、互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。：愛のない者に、神はわかりません。なぜなら神は愛だからです。

(1ヨハ4・7、8)

どうか、私たちの主イエス・キリストの神：が、神を知るための知恵と啓示の御霊を：与えてくださいますように。また、：心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか、また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを：知ることができますように。

(エペ1・17～19)

信仰の創始者であり、完成者であるイエスから目を離さないでいなさい。

(ヘブ12・2)

14 聖潔 聖さ

あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいて聖なるものとされなさい。それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならぬ。」と書いてあるからです。

(1ペテ1・15、16)

しかしあなたがたは、神によってキリスト・イエスのうちにあるのです。キリストは、私たちにとって、神の知恵となり、また、義と聖めと、贖いとなりました。(1コリ1・30)

しかし、あなたがたのことについては、私たちはいつでも神に感謝しなければなりません。主に愛されている兄弟たち。神は、御霊による聖めと、真理による信仰によって、あなたがたを、初めから救いにお選びになったからです。

(2テサ2・13)

救いだけではなく聖潔、聖潔の中にある救い、この目的のためにこそ、神は私たちを選び、召しておられます。キリストにあつて安全であることだけでなく、キリストにあつて聖なる者であることが、新しいキリスト者の目標でなければなりません。安全と救いとは、つまるところ、聖潔の中にだけ見いだされま

るキリスト者は、欺かれています。新しいキリスト者の皆さん。神のみことばを聴いてください。「あなたがたも、聖でなければならぬ。」(1ペテ1・16)

あなたがたを召してくださった聖なる方にならって、あなたがた自身も、あらゆる行ないにおいて聖なるものとされなさい。それは、「わたしが聖であるから、あなたがたも、聖でなければならぬ。」と書いてあるからです。

(1ペテ1・15、16)

では、なぜ私が聖くならなければならないのでしょうか？なぜなら、私を召されたお方が聖であり、ご自身との交わりとご自身に似た者となることへと、私たちを召しておられるからです。神と同じ性質を持たずに、どうして神に救われることなどありえましょう？

あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。これが、イスラエル人にあなたの語るべきことばである。

(出19・6)

あなたがたが自分の身を聖別するなら、あなたがたは聖なる者となる。わたしがあなたがたの神、主であるからだ。あなたがたは、わたしのおきてを守るなら、それを行なうであろう。わたしはあなたがたを聖なる者とする主である。

(レビ20・7、8)

神が聖であることは神の最高の栄光です。神が聖であることにおいて、神の義と愛は結び合わされます。神の聖は、罪であるすべてのものを焼き尽くす神の熱心となります。そのゆえに神は、ご自身が罪とは何の関わりもないお方であられ、愛によって他の人々をも罪から解放してくださるのです。神はイスラエルの聖なるお方であるゆえに、贖い主となられ、そうしてその民のただ中に住まわれるのです。

シオンに住む者。大声をあげて、喜び歌え。イスラエルの聖なる方は、あなたの中におられる、大いなる方。

(イザ12・6)

イスラエルを贖う、その聖なる方、主は、人にさげすまれている者、民に忌みきらわれている者、支配者たちの奴隷に向かってこう仰せられる。「王たちは見て立ち上がり、首長たちもひれ伏す。主が真実であり、イスラエルの聖なる方があなたを選んだからである。

(イザ49・7)

贖いは、私たちを神ご自身のもとに、ご自身の聖なる交わりに導くために与えられるのです。神が聖であられるように私たちも聖でなければ、神の愛と救いを受け取ることはできません。

すべての人との平和を追い求め、また、聖められることを追い求めなさい。聖くなければ、だれも主を見ることができません。

(ヘブ12・14)

新しいキリスト者よ。聖でありなさい。

私たちが所有すべきこの聖潔とはいったい何でしょうか？神によってあなたはキリストの中にあり、神によってキリストは、あなたを聖別されたものとされたのです。キリストがあなたの聖別であり、あなたの内にあるキリストのいのちが、あなたの聖潔です。

コリントにある神の教会へ。すなわち、私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。主は私たちの主であるとともに、そのすべての人々の主です。

(1コリ1・2)

キリストにあってあなたは聖別され、聖くなります。そして、キリストにあってさらに聖別されなければなりません。キリストの栄光が、あなたの生活全体に浸透しなければなりません。

聖潔（聖であること）は、きよめ（罪が洗いきよめられること）以上のことを意味します。みことばによって、罪のきよめが聖潔に先立つことを理解します。

キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもつて、教会をきよめて聖なるものとするためであり、「ご自身で、

しみや、しわや、そのようなものの何一つない、聖く傷のないものとなった栄光の教会を、「ご自分の前に立たせるためです。

(エペ5・26、27)

ですから、だれでも自分自身をきよめて、これらのことを離れるなら、その人は尊いことに使われる器となります。すなわち、聖められたもの、主人にとって有益なもの、あらゆる良いわざに間に合うものとなるのです。

(2テモ2・21)

きよめまたは洗いとは、悪いものが取り去られること（罪からの解放）です。聖潔とは、良いもの、神聖なもの、イエスさまのご性質で満たされることです。イエスさまに似た者となることが聖潔なのです。この世の霊から離れ、聖い神のご臨在に満たされることが聖潔なのです。幕屋は神がそこに住まわれたから聖であったように、私たちも神の宮として神が住まわれて初めて聖となるのです。私たちの内にあるキリストのいのちが私たちの聖潔なのです。

あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。もし、だれかが神の神殿をこわすなら、神がその人を滅ぼされます。神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたがその神殿です。

(1コリ3・16、17)

どのようにして私たちは聖くなれるのでしょうか？それは、聖霊のきよめによつてです。神の霊は、私たちを聖くするので、

聖霊と呼ばれます。聖霊は、私たちの内にキリストを啓示し栄光を現します。聖霊を通して、キリストが私たちの内に住まわれます。そしてその聖い力が私たちの内に働くのです。この霊を通して肉の働きが克服され、神が私たちの内に志を起こし、それを成就させてくださいます。

なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬのです。しかし、もし御霊によつて、からだの行ないを殺すなら、あなたがたは生きるのです。

(ロマ8・2、13)

父なる神の予知に従い、御霊の聖めによつて、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。どうか、恵みと平安が、あなたがたの上にますます豊かにされますように。

(1ペテ1・2)

そして、聖霊を通してキリストのこの聖潔を受けるために、私たちは何をすべきでしょうか？「神は、御霊の聖めによる救いと、真理による信仰によつて、あなたがたを…お選びになったのです。」

しかし、あなたがたのことについては、私たちはいつでも神に感謝しなければなりません。主に愛されている兄弟たち。神は、御霊による聖めと、真理による信仰によつて、あなたがた

を、初めから救いにお選びになったからです。

(2テサ2・13)

キリストの聖潔は信仰によって私たちに与えられます。第一に、聖められたいという願いが必要です。私たちはすべての肉と霊の汚れを告白し、それらを神に差出し、血潮によって洗いきよめていただくことによって、自らを聖めなければなりません。そのとき初めて、私たちは聖潔を全うすることができるのです。

愛する者たち。私たちはこのような約束を与えられているのですから、いつさいの霊肉の汚れから自分をきよめ、神を恐れかしこんで聖きを全うしようではありませんか。

(2コリ7・1)

第二に、キリストご自身が私たちの聖潔であられるという真理を信じなければなりません。キリストの豊かさの中に私たちのために備えられたものを、主から受け取らなければなりません。

ことばは人となって、私たちの間に住まれた。私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

私たちはみな、この方の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。

(ヨハ1・14、16)

キリストだけが完全に私たちの聖潔であり、キリストが私たちの義であり、そしてキリストが私たちの内に実際に力強く働いて、神に喜ばれるわざができるようにしてくださるということ深く確信することが必要です。私たちには、キリストから聖潔に至る十分な力を与えられており、日々信仰によってこの力をキリストから受けることが私たちの務めなのです。

私は神の恵みを無にはしません。もし義が律法によって得られるとしたら、それこそキリストの死は無意味です。

(ガラ2・21)

私たちは神の作品であって、良い行ないをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行ないに歩むように、その良い行ないをもあらかじめ備えてくださったのです。

(エペ2・10)

キリストは、彼の霊である聖霊を私たちの内に与えてくださいます。そして聖霊がイエスさまの尊いいのちを私たちに伝えてくださるのです。

新しいキリスト者の方々。三位一体の神は、聖なる、聖なる、聖なるお方です。

互いに呼びかわして言っていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満つ。」

(イザ6・3)

この三位一体の神が、あなたを聖めてくださるのです。御父は、イエスさまをあなたに与え、イエスさまの内にあなたを認めてくださいます。御子ご自身があなたの聖潔となってください、あなたに御霊を与えてくださいます。聖霊は、あなたの内に御子を啓示し、神が内に住まわれるための宮としてあなたを整え、御子があなたの内に住んでくださるようになってください。聖なる者となりましょう。神が聖なるお方であられるからです。

祈り

主なる神様。イスラエルの聖なるお方。私の聖潔としての御子を与えてくださり、御子の内に私が聖められるという、このすばらしい贈り物のゆえに、私はどのような感謝を神にささげたらよいのでしょうか！

そして私の内に住み、イエスさまの聖さを私に注いでくださる聖めの御霊のゆえに、私はどのような感謝を神にささげたらよいのでしょうか！

主よ。私をこの真理を理解しそれを体験することを熱心に求める者にしてください。アーメン。

課題

一、赦しときよめ、きよめと聖潔の違いは何ですか？

二、何が宮を聖所としたのですか？神の内住です。何が私たちを聖くしますか？聖霊によりキリストにあつて、神が内住されることによってであり、これ以下ではありません。従順と罪からのきよめが聖潔に至る道であり、聖潔そのものはより高い次元のものです。

三、イザヤ書第五十六章一―七節に、聖くされる人について述べられています。彼は貧しい霊の中で、たとえ義人として生きていたとしても、実際自分は何も持たないことを悟り、神の内住を求めて神を見上げるのです。

主はこう仰せられる。「公正を守り、正義を行なえ。わたしの救いが来るのは近く、わたしの義が現われるのも近いからだ。」幸いなことよ。安息日を守ってこれを汚さず、どんな悪事にもその手を出さない、このように行なう人、これを堅く保つ人は。主に連なる外国人は言つてはならない。「主はきつと、私をその民から切り離される。」と。宦官も言つてはならない。「ああ、私は枯れ木だ。」と。まことに主はこう仰せられる。「わたしの安息日を守り、わたしの喜ぶ事を選び、わたしの契約を堅く保つ宦官たちには、わたしの家、わたしの城壁のうちで、息子、娘たちにもまさる分け前と名を与え、絶えることのない永遠の名を与える。また、主に連なつて主に仕え、主の名を愛して、そのしもべとなつた外国人がみな、安息日を守ってこれを汚さず、わたしの契約を堅く保つなら、わたしは彼らを、わたしの聖なる山に連れて行き、わたしの祈りの家で

彼らを楽しませる。彼らの全焼のいけにえやその他のいけにえは、わたしの祭壇の上で受け入れられる。わたしの家は、すべての民の祈りの家と呼ばれるからだ。」（イザ56・1～7）

四、神以外に聖いお方はありません。あなたの内に神を豊かに持てば持つほど、神の聖潔にあずかれるのです。

五、「聖」は聖書の中で最も深い意味を持つことばの一つであり、神格の最も深い奥義です。あなたはそれについて少しでも理解し、その何がしかを手に入れたいと願いますか？もしそうならば、次の二つのことばに心を留め、いのちを持つ神の種としていつもあなたの心に留めていてください。

「わたしは聖である。」だから

「あなたも聖でありなさい。」

15 義

主はあなたに告げられた。人よ。何が良いことなのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行ない、誠実を愛し、へりくだって、あなたの神とともにあゆむことではないか。

(ミカ6・8)

また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。罪から解放されて、義の奴隷となったのです。あなたがたにある肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。あなたがたは、以前は自分の手足を汚れと不法の奴隷としてささげて、不法に進みましたが、今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖潔に進みなさい。

(ロマ・13、18、19)

ミカ書のみことばは、神の救いの実が、主に三つの事柄の中に見いだされると教えています。新しい生活は、神と主のみことろに関しては義と正しい行ないが、私の隣人に対しては愛と親切が、そして私自身については謙遜とつつましさ、特徴とならねばなりません。ここでは義について考えましょう。聖書は、神の前にはだれ一人として義ではなく、神の前に立つことができるだけの義を持つてはいないと言っています。

彼らはみな、離れて行き、だれもかれも腐り果てている。善を行なう者はいない。ひとりもない。(詩14・3)

それは、次のように書いてあるとおりです。「義人はいない。ひとりもない。」

なぜなら、律法を行なうことによっては、だれひとり神の前に義と認められないからです。律法によっては、かえって罪の意識が生じるのです。

(ロマ3・10、20)

人は、義すなわちキリストの義を、無償の贈り物として受け取ります。そして、信仰によって得られる義によってのみ、神の前に義とされ、神との正しい関係に置かれるのです。

すなわち、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、それはすべての信じる人に与えられ、何の差別もありません。

ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。(ロマ3・22、24)

神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方にあつて、神の義となるためです。

(2コリ5・21)

この「義である」という神の判決は有効であり、それによって義のいのちが人の内に植え付けられます。その人は義人として生き、義を行なうことを学んで行くのです。

もしひとりの人の違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、なおさらのこと、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりの人イエス・キリストにより、いのちにあつて支配するのです。こういうわけで、ちょうど一つの違反によつてすべての人が罪に定められたのと同様に、一つの義の行為によつてすべての人が義と認められて、いのちを与えられるのです。

(ロマ5・17、18)

また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。

(ロマ6・13)

私たちに、不敬虔とこの世の欲とを捨て、この時代にあつて、慎み深く、正しく、敬虔に生活し、祝福された望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるキリスト・イエスの栄光ある現われを待ち望むようにと教えさとしたからです。

(テト2・12)

だれでも神から生まれた者は、罪のうちを歩みません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪のうちを歩むことができないのです。そのことによつて、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行なわない者はだれも、神から出た者で

はありません。兄弟を愛さない者もそうです。

(1ヨハ3・9、10)

神との正しい関係にあることの結果、義を行うようになるのです。「義人は信仰によつて(正しい生活を)生きる」からです。このことがほとんど理解されていないのではないかと恐れます。ほとんどの人は生活や歩みにおいて、義であることよりも、義と認められることに注意を傾けます。神のみことごとく御思いを理解するために、みことばがこの点について何と云っているかを学びましょう。神の前に神の義を着せられた人は、神と人との前に神の義をまとして歩まなければならないことを私たちは確信するでしょう。

みことばの中で、神の僕がどのようにに義人として称賛されているかをよく考えてください

主はノアに仰せられた。「あなたとあなたの全家族とは、箱舟にはいりなさい。あなたがこの時代にあつて、わたしの前に正しいのを、わたしが見たからである。」

(創7・1)

そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルの慰められることを待ち望んでいた。聖霊が彼の上にとどまっておられた。(ルカ2・25)

神の好意と祝福が、どのように義人に告げられているでしょうか。このことを特に詩篇から見てみましょう。

まことに、主は、正しい者の道を知っておられる。しかし、悪者の道は滅びうせる。
(詩 1・6)

主よ。まことに、あなたは正しい者を祝福し、大盾で囲むように愛で彼を囲まれます。
(詩 5・12)

主の目は正しい者に向き、その耳は彼らの叫びに傾けられる。主の御顔は悪をなす者からそむけられ、彼らの記憶を地から消される。彼らが叫ぶと、主は聞いてくださる。そして、彼らをそのすべての苦しみから救い出される。主は心の打ち砕かれた者の近くにおられ、たましいの砕かれた者を救われる。正しい者の悩みは多い。しかし、主はそのすべてから彼を救い出される。主は、彼の骨をことごとく守り、その一つさえ、砕かれることはない。
(詩 34・15〜20)

また義人が、どのように信頼と喜びに招かれているでしょうか。

正しい者たち。主にあって、喜び、楽しめ。すべて心の直ぐな人たちよ。喜びの声をあげよ。
(詩 32・11)

こうして人々は言おう。「まことに、正しい者には報いがある。まことに、さばく神が、地におられる。」(詩 58・11)

神よ。私の嘆くとき、その声を聞いてください。恐るべき敵から、私のいのちを守ってください。悪を行なう者どものはかりごとから、不法を行なう者らの騒ぎから、私をかくまってください。彼らは、その舌を剣のように、とぎすまし、苦いことばの矢を放っています。全き人に向けて、隠れた所から射掛け、不意に射て恐れません。(詩 64・1〜4)

さらに、箴言の中にどう書かれているかを見ましょう。その一つの章だけを取り上げてみても、すべての祝福がいかに義人に告げられているかを知ることができます。

ソロモンの箴言

知恵のある子は父を喜ばせ、愚かな子は母の悲しみである。不義によって得た財宝は役に立たない。しかし正義は人を死から救い出す。

主は正しい者を飢えさせない。しかし悪者の願いを突き放す。

無精者の手は人を貧乏にし、勤勉な者の手は人を富ます。

夏のうちに集める者は思慮深い子であり、刈り入れ時に眠る者は恥知らずの子である。

正しい者の頭には祝福があり、悪者の口は暴虐を隠す。

正しい者の呼び名はほめたたえられ、悪者の名は朽ち果てる。心に知恵のある者は命令を受け入れる。むだ口をたたく愚か者は踏みつけられる。

まっすぐに歩む者の歩みは安全である。しかし自分の道を曲げる者は思い知らされる。

目くばせする者は人を痛め、むだ口をたたく愚か者は踏みつけられる。

正しい者の口はいのちの泉。悪者の口は暴虐を隠す。

憎しみは争いをひき起こし、愛はすべてのそむきの罪をおお

う。

悟りのある者のくちびるには知恵があり、思慮に欠けた者の背には杖がある。

知恵のある者は知識をたくわえ、愚か者の口は滅びに近い。

富む者の財産はその堅固な城。貧民の滅びは彼らの貧困。

正しい者の報酬はいのち。悪者の収穫は罪。

訓戒を大事にする者はいのちへの道にあり、叱責を捨てる者は迷い出る。

憎しみを隠す者は偽りのくちびるを持ち、そしりを口に出す者は愚かな者である。

ことば数が多いところには、そむきの罪がつきもの。自分のくちびるを制する者は思慮がある。

正しい者の舌はえり抜きの銀。悪者の心は価値がない。

正しい者のくちびるは多くの人を養い、愚か者は思慮がないために死ぬ。

主の祝福そのものが人を富ませ、人の苦勞は何もそれに加えない。

愚かな者には悪事が楽しみ。英知のある者には知恵が楽しみ。

悪者の恐れていることはその身にふりかかり、正しい者の望みはかなえられる。

つむじ風が過ぎ去るとき、悪者はいなくなるが、正しい者は永遠の礎である。

使いにやる者にとって、なまけ者は、齒に酢、目に煙のようなものだ。

主を恐れることは日をふやし、悪者の年は縮められる。

正しい者の望みは喜びであり、悪者の期待は消えうせる。

主の道は、潔白な人にはとりでであり、不法を行なう者には滅びである。

正しい者はいつまでも動かされない。しかし悪者はこの地に住みつくことができない。

正しい者の口は知恵を实らせる。しかしねじれた舌は抜かれる。

正しい者のくちびるは好意を、悪者の口はねじれごとを知っている。
(箴10・132)

どの箇所を見ても、人間は二つの種類、義人と不信者に分けられていることがわかるでしょう。

義人は幸いだと言え。彼らはその行ないの実を食べる。

(イザ3・10)

しかし、悪者でも、自分の犯したすべての罪から立ち返り、わたしのすべてのおきてを守り、公義と正義を行なうなら、彼は必ず生きて、死ぬことはない。

わたしは悪者の死を喜ぶだろうか。…神である主の御告げ。

…彼がその態度を悔い改めて、生きることが喜ばないだろうか。

(エゼ18・21、23)

人の子よ。あなたの民の者たちに言え。正しい人の正しさも、彼がそむきの罪を犯したら、それは彼を救うことはできない。悪者の悪も、彼がその悪から立ち返るとき、その悪は彼を倒すことはできない。正しい人でも、罪を犯すとき、彼は自分の正しさによって生きることができない。

(エゼ33・12)

あなたがたは再び、正しい人と悪者、神に仕える者と仕えない者との違いを見るようになる。

(マラ3・18)

こうして、この人たちは永遠の刑罰にはいり、正しい人たちは永遠のいのちにはいるのです。

(マタ25・46)

イエスさまが新約聖書において、この義をどのように宣言しておられるかを見ましよう。

義に飢え渴いている者は幸いです。その人は満ち足りるからです。

(マタ5・6)

まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、はいれません。

(マタ5・20)

そして、信仰のみによる義認を、誰よりも熱心に表明しているパウロが、善を行なう義人を造り上げることが、義認の目的であると主張していることに注目しましょう。

それでは、私たちは信仰によって律法を無効にすることになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。かえって、律法を確立することになるのです。

(ロマ3・31)

私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。私たちが肉にあったときは、律法による数々の罪の欲情が私たちのからだの中に働いていて、死のために実を結びました。しかし、今は、私たちは自分を捕えていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。

(ロマ7・4、6)

イエス・キリストによって与えられる義の実に満たされている者となり、神の御栄えと誉れが現わされますように。

(ピリ1・11)

ヨハネが、神の子どもの欠くことのできない二つのしるしとして、愛とともに義を挙げていることに注目しましょう。

神を知っていると言いながら、その命令を守らない者は、偽り者であり、真理はその人のうちにありません。

兄弟を憎む者は、やみの中におり、やみの中を歩んでいるのであって、自分がどこへ行くのか知らないのです。やみが彼の目を見えなくしたからです。

もしあなたがたが、神は正しい方であると知っているなら、義を行なう者がみな神から生まれたこともわかるはずです。

(1ヨハ2・4、11、29)

そのことによって、神の子どもと悪魔の子どもの区別がはっきりします。義を行なわない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。(1ヨハ3・10)

これらの事実を突き合わせるなら、真のキリスト者とは、神が義であられるように、すべてのことにおいて義を行なう人のことだということが、あなたに明らかとなるでしょう。

そしてこの義とは何かについて、聖書もあなたに教えています。それは神の命令と全く一致した生き方です。義人は主の御目に正しいことを行なうのです。

私はあなたの救いを待ち望んでいます。主よ。私はあなたの仰せを行なっています。

私はあなたの戒めと、さとしとを守っています。私の道はすべて、あなたの御前にあるからです。

(詩119・166、168)

われらの生涯のすべての日に、きよく、正しく、恐れなく、主の御前に仕えることを許される。

(ルカ1・75)

その人は、人間の行動規範を採るのではなく、適法かどうかを問題にしません。神の義に立つ者として、彼は最も些細な不義をさえ恐れます。とりわけ自分を特別扱いすることや、自己の利益のために隣人にどんな悪を行なうことをも恐れます。大きいことにおいても小さいことにおいても、みことばを基準及び規範として用います。神と結ばれた者として、義の道が祝福といのちと喜びの道であることを知っているのです。

神が義人にお与えになる祝福と喜びの約束をさらに深く考えなさい。そして神の友として、また信仰によって神の御子の義を着せられて、義を行なう以外にとるべき道はない者として生きましょう。

祈り

主よ。あなたは言われました。「わたしの他に神はいない。わたしは公正な神であり、救い主である。」と。あなたは私の神

です。あなたは義なる神であられるゆえに、私の救い主となつてくださり、御子によつて私を贖ってくださいました。義なる神として、あなたは私をも義としてくださり、義人は信仰によつて生きる、と言つてくださいました。主よ、私の新しい生活を信仰の生活、義人の生活としてください。アーメン。

課題

一、義を行なうことと聖潔との関係をローマ人への手紙第六章十九節～二十二節のみことばで見てください。「…あなたの手足を義の奴隷としてささげて、聖潔に進みなさい。…あなたは神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。」

義を行なうこと、行いにおける義が聖潔への道です。従順は聖霊に満たされる道です。聖霊を通して神が内住しておられること、これが聖潔です。

あなたがたにある肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。あなたがたは、以前は自分の手足を汚れと不法の奴隷としてささげて、不法に進みましたが、今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖潔に進みなさい。罪の奴隷であった時は、あなたがたは義については、自由にふるまっています。その当時、今ではあなたがたが恥じているそのようなものから、何か良い実を得たでしょうか。それらのものの行き着く

所は死です。しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。
(ロマ6・19～22)

二、ところが、イエスは答えて言われた。「今はそうさせてもらいたい。このようにして、すべての正しいことを実行するのは、わたしたちにふさわしいのです。」そこで、ヨハネは承知した。こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がった。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下つて、自分の上に来られるのをご覧になった。

(マタ3・15、16)

主イエスさまが聖霊のバプテスマを受けられたのは、このように言われたときでした。神への全き従順のうちに歩ませまいとするあらゆる誘惑を、私たちは拒絶しようではありませんか(イエスさまがそうされたように)。そうすれば私たちも聖霊に満たされるでしょう。

義に飢え渴いている者は幸いです。その人は満ち足りるからです。
(マタ5・6)

三、「義人」の名が自然に付いてくる歩みをされるお方(イエスさま)のお姿を、あなたの前に絶えず置くように努めましょう。そのお方の高潔さ、最も小さい傷さえ誰にも負わせまいとされた慎重なご配慮、神の命令に一つもそむかないための聖い

恐れと注意深さ、神のすべての命令と定めについて非難される
ところのない歩みをされたイエスさまを心に留めましょう。そし
て、私もそのように生きますと主に申し上げましょう。

四、「義人は信仰によつて生きる。」というこのすばらしいみ
ことばの意味を、今あなたは理解しました。信仰によつて不義
な者が義と認められ、そして義人になるのです。信仰によつて
義
人として生きるのです。

なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義
は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によ
つて生きる。」と書いてあるとおりです。（ロマ1・17）

16 愛

あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。もしあなたがたの互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。

(ヨハ13・34、35)

愛は隣人に対して害を与えません。それゆえ、愛は律法を全うします。

(ロマ13・10)

愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださいましたのなら、私たちもまた互いに愛し合うべきです。いまだかつて、だれも神を見た者はありません。もし私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにおられ、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。

(1ヨハ4・11、12)

前の章で学んだミカ書のみことばによれば、公義（律法にかなった正しい行動）を行なうことが第一で、誠実（慈しみ・共同訳、口語訳）を愛することが次に神の求めておられることでした。義は旧約聖書の中でもむしろ際立った位置にありました。愛が至高のものとして扱われているのを最初に見るのは新約聖書においてです。このような愛の宣言を見いだすのは難しいことではありません。神の愛が完全に現れたのは、イエスさまの

到来を通してでした。新しい永遠のいのちが与えられたのも、私たちが神の子どもとなり互いに兄弟姉妹となったのも、イエスさまの到来を通してでした。

このことのゆえに、主は初めて、新しい命令（兄弟愛の命令）についてお語りになることができます。義は、旧約聖書においてと同じ程度に新約聖書においても求められています。

義に飢え渴いている者は幸いです。その人は満ち足りるからです。

(マタ5・6)

わたしが来たのは律法や預言者を廃棄するためだと思っではありません。廃棄するためではなく、成就するために来たのです。

まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人の義にまさるものでないなら、あなたがたは決して天の御国に、はいれません。

(マタ5・17、20)

しかし、新約聖書が強調するのは、旧約の時代には不可能であった、愛するための力が私たちに与えられているということです。

あなたがたに新しい戒めを与えましょう。あなたがたは互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、そのように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

(ヨハ13・34)

この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

(ロマ5・5)

兄弟愛については、何も書き送る必要がありません。あなたがたこそ、互いに愛し合うことを神から教えられた人たちだからです。

(1テサ4・9)

すべてのキリスト者は、第一の偉大な命令（すなわち、主が十字架にかかられる前に与えられた新しい命令）を心に深く受け入れましょう。その命令とは、イエスさまの弟子の特質は兄弟を愛することであるべきである、ということでした。この命令に従うために、心を尽くしてキリストに頼ろうではありませんか。この兄弟愛を適切に実践するためには、いくつかのことに気をつけなければなりません。

兄弟への愛は、御父の愛から溢れ出るのです。聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれます。御父の驚くべき愛が、私たちの魂のいのちと喜びとなるために、私たちに現わされました。神の愛の泉から、神への愛が湧き上がります。

私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださいましたからです。

(1ヨハ4・19)

そして、私たちの神への愛は、自然に兄弟への愛として働くのです。

ですから、愛されている子どもらしく、神にならう者となりなさい。また、愛のうちに歩みなさい。キリストもあなたがたを愛して、私たちのために、「ご自身を神へのささげ物、また供え物とし、香ばしいかおりをおささげになりました。

(エペ5・1、2)

私たちが神の子どもと呼ばれるために・・・事実、いま私たちは神の子どもです。・・・御父はどんなにすばらしい愛を与えてくださったことでしょうか。世が私たちを知らないのは、御父を知らないからです。

(1ヨハ3・1)

愛する者たち。私たちは、互いに愛し合いましょう。愛は神から出ているのです。愛のある者はみな神から生まれ、神を知っています。

(1ヨハ4・7)

この兄弟を愛しなさいという命令を、自分の力で実行しようとしてはなりません。それはあなたのなすべきことではありません。そうではなく、神の愛を知らせてくださる内住の御霊が、あなたにこの愛をもたらされることを信じましょう。「私は全く愛を感じません。この人を赦せるとは思えません。」とは決して言うてはなりません。感情によってあなたのなすべきことを行うではありません。神の命令と、命令を守るために神が力を与えて下さることを信じる信仰によるのです。

御父に服従し、自分の意志をもって選択し、力を与えてくださる聖霊を信じて、このように告白し始めましょう。「私は彼を愛します。私は心から彼を愛します。」感情は信仰についてききます。恵みは、御父があなたに求められるすべてを成し遂げることできる力を、与えてくださるのです。

しかし、わたしはあなたがたに言います。自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい。それでこそ、天におられるあなたがたの父の子どもになれるのです。天の父は、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるからです。
(マタ5・44、45)

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きていたのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。
(ガラ2・20)

また、私たちがあなたがたを愛しているように、あなたがたの互いの間の愛を、またすべての人に対する愛を増させ、満ちあふれさせてくださいますように。また、あなたがたの心を強め、私たちの主イエスがご自分のすべての聖徒とともに再び来られるとき、私たちの父なる神の御前で、聖く、責められるところのない者としてくださいますように。

(1テサ3・12、13)

あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをしてください。
(1テサ5・24)

兄弟愛はその基準と手本が、イエスさまの愛の中にあります。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」(ヨハネ15・12)

だが、あなたがたは、それではいけません。あなたがたの間で一番偉い人は一番年の若い者のようになりなさい。また、治める人は仕える人のようでありなさい。食卓に着く人と給仕する者と、どちらが偉いでしょう。むろん、食卓に着く人でしょう。しかしわたしは、あなたがたのうちにあって給仕する者のようにしています。
(ルカ22・26、27)

それで、主であり師であるこのわたしが、あなたがたの足を洗ったのですから、あなたがたもまた互いに足を洗い合うべきです。わたしがあなたがたにしたとおりに、あなたがたもするよう、わたしはあなたがたに模範を示したのです。

(ヨハ13・14、15)

私たちの内に働く永遠のいのちは、イエスさまのいのちです。イエスさまのいのちは、イエスさまの内にいる以外のどんな法則も知りません。このいのちは、イエスさまを通して働いたように私たちの内にも力をもって働きます。イエスさまご自身が私たちの内に生き、私たちにおいて私たちを通して愛されま

す。私たちは、自分の内にあるこの愛の力を信じ、この信仰によって、主が愛されたように愛さなければなりません。イエスさまが愛されたように愛すること、これが本当の救いであることを信じてください。

兄弟愛は、行ないと真実によらなければなりません。

天におられるわたしの父のみこころを行なう者はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。 (マタ12・50)

愛は隣人に対して害を与えません。それゆえ、愛は律法を全うします。 (ロマ13・10)

キリスト・イエスにあつては、割礼を受ける受けないは大事なことでなく、愛によって働く信仰だけが大事なのです。 (ガラ5・6)

キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。世の富を持ちながら、兄弟が困っているのを見ても、あわれみの心を閉ざすような者に、どうして神の愛がとどまっているでしょう。子どもたちよ。私たちは、ことばや口先だけで愛することをせず、行ないと真実をもって愛そうではありませんか。

(1ヨハ3・16〜18)

兄弟愛はただの感情ではありません。愛によって働く信仰が、キリストの内にあつて力となっているものなのです。兄弟愛がどういふものであるかは、みことばにおいて列挙されているすべての特質によって明らかにされています。第一コリント第十三章四節〜八節に描かれている輝かしいイメージを黙想しましょう。寛容、忍耐、慈しみに対するすばらしい奨励に注目しましょう。

愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。愛は決して絶えることがありません。 (1コリ13・4〜8)

謙遜と柔和の限りを尽くし、寛容を示し、愛をもって互いに忍び合い、…
お互いに親切にし、心の優しい人となり、神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。 (エペ4・2、32)

私の喜びが満たされるように、あなたがたは一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つにしてください。何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。 (ピリ2・2、3)

あなたの行ないのすべてにおいて、キリストの愛があなたの内に宿っていることがわかるようにしましょう。あなたの愛がイエスさまの愛のように、人の助けになり自己犠牲的な愛であるようにしましょう。神の子どもたちすべてを、たとえ彼らが弱く不完全であっても、熱く抱きしめましょう。彼らを愛することを通して、すべての人を愛することを学ぶことができるのです。

自分を愛する者を愛したからといって、あなたがたに何の良いところがあるでしょう。罪人たちでさえ、自分を愛する者を愛しています。

ただ、自分の敵を愛しなさい。彼らによくしてやり、返してもらうことを考えずに貸しなさい。そうすれば、あなたがたの受ける報いはすばらしく、あなたがたは、いと高き方の子どもになれます。なぜなら、いと高き方は、恩知らずの悪人にも、あわれみ深いからです。

(ルカ 6・32、35)

あなたがたは、真理に従うことによって、たましいを清め、偽りのない兄弟愛を抱くようになったのですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。

(1ペテ 1・22)

あなたの家族、教会、そしてこの世が、あなたの内に、愛が最も偉大であるお方、神の愛が充滿して全く自由に働いているお方（イエスさま）を見ることができるようになります。

神は愛です。イエスさまは、あなたに愛をもたらし、神の愛の

生活へとあなたを植え替えるために与えられた贈り物です。この信仰に生きましょう。そうすれば、自分には愛する力がないと言って、つぶやくことはなくなるでしょう。聖霊の愛があなたの力となり、いのちとなるでしょう。

祈り

愛する救い主よ。新しいいのちとは、愛に生きるいのちのことであるということがより明確に理解できました。あなたは神の愛する御子であられ、神の愛の贈りものです。私たちを神の愛に導き、そこに住まわせてくださるために来られました。与えられた聖霊は、私たちの心に神の愛を注ぎ、あなたと兄弟たちとすべての人へと愛を流れ出させる泉を開くために与えられました。主よ。愛によって贖われ、愛のゆえに生き、すべての人を愛する力の中に生きるために贖われた私がここにあります。アーメン。

課題

一、神のことばを拒絶する人は時々、もし私たちに愛があれば何を信じるかは重要ではないと言って、愛を救いの条件のひとつにしようとしています。このような見解に反対する熱意から、保守派は時々、あたかも愛はそれほど重要ではないかのように義認を示すことがありました。これらは危険な考えです。

神は愛です。神の御子は神の愛の贈り物であり、神の愛を私たちに携えて来てくださったお方です。聖霊は私たちの心に神の愛を注いでくださいます。新しい生活は愛の中にある生活です。愛は最もすぐれたものです。まことの愛―神の戒めを守ることによつて知られる愛―を、私たちの生活の最も大切な要素としましょう。

そのことによつて、神の子どもと悪魔の子どもとの区別がはっきりします。義を行なわない者はだれも、神から出た者ではありません。兄弟を愛さない者もそうです。(1ヨハ3・10)

二、愛を全く感じない時も愛しなさいと私が言ったことを、不思議に思つてはなりません。あなたの力となるのは、あなたがどう感じるかによるのではなく、あなたが何を意志するかなのです。

御父があなたに求められるすべてのことを行うのは、あなたの感情ではなくて、あなたの内におられる聖霊があなたの意志の力であるという信仰なのです。ですからあなたの敵に対して愛を全く感じなくても、信仰の従順によつてこう言いましょう。

「お父様。私は彼を愛します。私は信仰によつて、私の心の中の隠れた聖霊の働きを信じて、この人を愛します。」

三、あなたが単に人の不幸を望まないから、あるいは必要ならば誰かを助けたいと思つてゐるからといって、これが愛であると思つてはなりません。愛は、それ以上のものです。愛は、私たちがまだ神の敵であつた時に、私たちのために問題に取り組んでくださった神のみこころであり、それからあなたを祝福したいという優しい願いをもつて走り寄つてくださった憐れみ深い熱望なのです。

17 謙遜

主はあなたに告げられた。人よ。何が良いことなのか。主は何をあなたに求めておられるのか。それは、ただ公義を行ない、誠実を愛し、へりくだってあなたの神とともに歩むことではないか。

(ミカ6・8)

わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたまたみに安らぎが来ます。

(マタ11・29)

新しいキリスト者にとつて、最も危険な敵の一つは高慢、すなわち自分を高くすることです。これほど巧妙に、密かに働く罪は他にはありません。高慢の罪は、あらゆることに、神への私たちの礼拝や祈りや謙遜にさえにも、その内部に入り込む方法を心得ています。地上の生活におけるどんなに些細なことであっても、霊的生活におけるどんなに神聖なことであっても、高慢は、そこから栄養を抽出する方法を心得ているのです。

彼は神を認めることを教えたゼカリヤの存命中は、神を求めた。彼が主を求めていた間、神は彼を榮えさせた。

しかし、彼が強くなると、彼の心は高ぶり、ついに身に滅びを招いた。彼は彼の神、主に対して不信の罪を犯した。彼は香の

壇の上で香をたこうとして主の神殿にはいった。

(2歴26・5、16)

また、その啓示があまりにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。

(2コリ12・7)

ですから、キリスト者は高慢にならないように警戒し、高慢と高慢を追放してくれる謙遜について、みことばが何を教えているかに耳を傾けなければなりません。

人間は神の栄光を分かち合うために造られました。神に栄光を帰することに自分を献げることによって、人は神の栄光にあずかるのです。神の栄光が現わされることだけを追求すればするほど、栄光はその人の上にとどまります。

わたしの名で呼ばれるすべての者は、わたしの栄光のために、わたしがこれを創造し、これを形造り、これを造った。

(イザ43・7)

ユダが出て行ったとき、イエスは言われた。「今こそ人の子は栄光を受けました。また、神は人の子によって栄光をお受けになりました。神が、人の子によって栄光をお受けになったのであれば、神も、ご自身によって人の子に栄光をお与えになります。しかも、ただちにお与えになります。

(ヨハ13・31、32)

こういうわけで、あなたがたは、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神の栄光を現わすためにしなさい。

(1コリ10・31)

そのためにも、私たちはいつも、あなたがたのために祈っています。どうか、私たちの神が、あなたがたをお召しにふさわしい者にし、また御力によって、善を慕うあらゆる願いと信仰の働きとを全うしてくださいように。それは、私たちの神であり主であるイエス・キリストの恵みによって、主イエスの御名があなたがたの間であがめられ、あなたがたも主にあつて栄光を受けるためです。

(2テサ1・11、12)

神がすべてとなり、ただ神お一人が栄光をお受けになるために、自分が空しくなることを願い自分を忘れて失うほど、その人はより幸せになるのです。

この神のご計画は、罪によって妨害されてしまいました。人は自分自身と自分の意志とを追求するようになったのです。

というのは、彼らは、神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えてしまいました。(ロマ1・21、23)

恵みは、罪が堕落させてしまったものを回復し、自分に死んで神の栄光のためだけに生きることを通して、人を栄光に導くためにやって来ました。これこそ、イエスさまが模範として示された謙遜であり、へりくだりなのです。

イエスさまは、ご自分の思いを完全に捨てて、ひたすら御父の栄光を現わすためにご自身をささげられました。

ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。(ピリピ2・7)

自己高揚から解放されたいならば、その働きと戦うことによって、これを得ることができると考えるはなりません。あらゆる高慢を追い出し、謙遜によってそれを中に入れないようにしなければなりません。キリストにあるいのちの御霊、主のへりくだりの御霊が、私たちの内に真の謙遜を働かせてくださるのです。

なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

(ロマ8・2)

この目的のために、主が用いられる主な手段はみことばです。私たちが罪からきよめられるのはみことばによるのです。また、私たちが聖別され、神の愛に満たされるのもみことばによるのです。

これについて、みことばが何と言っているかを見てみましょう。みことばは、神が高慢を憎まれることと、高慢にはさばきが下ることを語っています。

すべて、主の聖徒たちよ。主を愛しまつれ。主は誠実な者を保たれるが、高ぶる者には、きびしく報いをされる。

(詩31・23)

だれでも、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされます。

(マタ23・12)

同じように、若い人たちよ。長老たちに従いなさい。みな互いに謙遜を身に着けなさい。神は高ぶる者に敵対し、へりくだる者に恵みを与えられるからです。

(1ペテ5・5)

みことばは、自分を低くする者に、最もすばらしい約束を与えています。

いと高くあがめられ、永遠の住まいに住み、その名を聖となえられる方が、こう仰せられる。「わたしは、高く聖なる所に住み、心碎かれて、へりくだった人とともに住む。へりくだった人の霊を生かし、碎かれた人の心を生かすためである。

(イザ57・15)

あなたがたに言うが、この人(取税人)が、義と認められて家に帰りました。パリサイ人ではありません。なぜなら、だれで

も自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからです。」

(ルカ18・14)

ほとんどすべての書簡において、謙遜は第一に挙げられるべき美徳のひとつとして推奨されています。

私は、自分に与えられた恵みによって、あなたがたひとりひとりに言います。だれでも、思ふべき限度を越えて思い上がってはいけません。いや、むしろ、神がおののに分け与えてくださった信仰の量りに応じて、慎み深い考え方をしなさい。

互いに一つ心になり、高ぶった思いを持たず、かえって身分の低い者に順応しなさい。自分こそ知者だなどと思つてはいけません。

(ロマ12・3、16)

愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。

(1コリ13・4)

何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。(ピリ2・3)

それはイエスさまが弟子たちにもっとも強く印象づけようと思われたことであって、イエスさまの姿に見られる特徴です。イエスさまが人となられたこととその贖いのすべては、極度の辱めを耐え忍ばれたほどのイエスさまの謙りに基づいているのです。

あなたがたの間では、そうではありません。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、みなに仕える者になりなさい。

人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。

(マタ20・26、28)

ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられたのです。キリストは人としての性質をもって現われ、自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われたのです。

(ピリ2・7、8)

時々これらのみことばを取り上げて心に刻みましよう。いのちの木は様々な種類の種を生じます。その種の中には天の植物の種、謙遜もあります。それらの種はみことばです。あなたの心に種(みことば)をいつも持ち続けるならば、それらはやがて成長し実を結びます。

こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。

(1テサ2・13)

ですから、すべての汚れやあふれる悪を捨て去り、心に植えつけられたみことばを、すなおに受け入れなさい。みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます。

(ヤコ1・21)

神が謙遜をどれほど愛され、どれほどふさわしいこととされ、どれほど喜ばれることであるかを、さらに深く考えてみましょう。神の誉れとして創造された人間として、謙遜がいかに自然であるかがわかるでしょう。私たちは全く価値のない罪人として、このことに反対できる何物も持ち合わせてはいません。

それで私は自分をさげすみ、ちりと灰の中で悔い改めます。

(ヨブ42・6)

そこで、私は言った。「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。しかも万軍の主である王を、この目で見たのだから。」

(イザ6・5)

これを見たシモン・ペテロは、イエスの足もとにひれ伏して、「主よ。私のような者から離れてください。私は、罪深い人間ですから。」と言った。

(ルカ5・8)

贖われた魂は、生まれながらの「私」が死ぬことによってのみ、新しいいのちへの道が開かれることを知っているのです、謙遜が不可欠であることがわかるのです。

私は使徒の中では最も小さい者であって、使徒と呼ばれる価値のない者です。なぜなら、私は神の教会を迫害したからです。ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。（1コリ15・9、10）

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きていたのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。（ガラ2・20）

神の子どもは、御父の愛に圧倒されて、何よりも謙遜を第一に考慮しなければなりません。

私はあなたがしもべに賜わったすべての恵みとまことを受けるに足りない者です。私は自分の杖一本だけを持って、このヨルダンを渡りましたが、今は、二つの宿営を持つようになったのです。（創32・10）

ですから、あなたがたは、神の力強い御手の下にへりくだりなさい。神が、ちょうど良い時に、あなたがたを高くしてください。ためです。

あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあつてその永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみのあとで完全に、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。（1ペテ5・6、10）

しかしここでも、恵みの生活のすべてがそうであるように、信仰が最も大切な要素でなければなりません。あなたの内に働く永遠のいのちの力を信じましょう。あなたのいのちであるイエスさまの力を信じましょう。内住の聖霊の力を信じましょう。あなたの高慢を隠そうとしたり、それを忘れようとしたり、自分でその根を抜いてしまおうと企ててはなりません。イエスさまの血が洗いきよめ、聖霊が聖別してくださることを確信して、見つけ出せる限りの高慢の罪とその働きを告白しましょう。

心優しく、へりくだったイエスさまから学びましょう。イエスさまが持つておられるすべてとともに、イエスさまがあなたのいのちであることを心を留めましょう。イエスさまが、ご自身の謙遜をあなたに与えてくださると信じるのです。「主イエスさまに對してしなさい。」とは、「主イエスさまを着なさい。」ということです。

イエスさまを着るために、謙遜で身を覆いましょう。あなたを謙遜で満たされるのは、あなたの内におられるキリストです。

祈り

聖なる主イエスさま。あらゆる人の中で、あなたのようによく高く神聖で栄光に輝く人は誰もいませんでした。あなたのようにへりくだった人、すべての人に仕える者として自分自身を捨てる用意のあった人は誰もいませんでした。ああ、主よ。へりくだりこそ人を神の栄光に最も似た者にするのできる恵みであることを、私たちはいつ学ぶのでしょうか。ああ、このことを私に教えてください。アーメン。

課題

一、他の人の高慢を育てるようなことを、あなたが何一つしないように注意しましょう。あなたの高慢を育てるようなことを、他の人に何一つさせないように注意しましょう。とりわけ、自分の高慢を育てるようなことを、あなた自身が何一つしないように注意しましょう。神だけが絶えずすべてのことに続いて誉れをお受けになるようにしてください。神の子どもたちに与えられているすべての良い点を認めて、心から神に感謝するように努めましょう。自分自身を低い評価に保つことを助け

てくれるすべてのことに対して（それが友人からあるいは敵から与えられたことであっても）、主に感謝しましょう。どんなときにも、決して自分自身の誉れを求めまいと決心しましょう。このことを御父に委ね、神の誉れだけを求めましょう。

二、気が弱いことや躊躇することが謙遜であると考えてはなりません。深い謙遜と強い信仰は共存するのです。百人隊長は、「主よ。あなたに私の屋根の下まで来ていただく資格は、私にはありません。」と言いました。

そしてカナンの女は、「主よ。そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます。」と言いました。これらの二人は主が見いだされた最も謙遜で最も信仰に満ちた人たちでした。

イエスがカペナウムにはいられると、ひとりの百人隊長がみもとに来て、懇願して、言った。「主よ。私のしもべが中風やみで、家に寝ていて、ひどく苦しんでおります。」イエスは彼に言われた。「行って、直してあげよう。」しかし、百人隊長は答えて言った。「主よ。あなたを私の屋線の下にお入れする資格は、私にはありません。ただ、おことばをいただくだけでいい。そうすれば、私のしもべは直りますから。と申しますのは、私も権威の下にある者ですが、私自身の下にも兵士たちがいます、そのひとりに『行け。』と言えば行きますし、別の者に『来い。』と言えば来ます。また、しもべに『これをせ

よ。』と言え、そのとおりにいたします。」イエスは、これを聞いて驚かれ、ついて来た人たちにこう言われた。「まことに、あなたがたに告げます。わたしはイスラエルのうちのだれにも、このような信仰を見たことはありません。」

(マタ8・5〜10)

すると、その地方のカナン人の女が出て来て、叫び声をあげて言った。「主よ。ダビデの子よ。私をあわれんでください。娘が、ひどく悪霊に取りつかれているのです。」しかし、イエスは彼女に一言もお答えにならなかった。そこで、弟子たちはみもとに来て、「あの女を帰してやってください。叫びながらあとについて来るのです。」と言ってイエスに願った。しかし、イエスは答えて、「わたしは、イスラエルの家の滅びた羊以外のところには遣わされていません。」と言われた。しかし、その女は来て、イエスの前にひれ伏して、「主よ。私をお助けください。」と言った。すると、イエスは答えて、「子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのはよくないことです。」と言われた。しかし、女は言った。「主よ。そのとおりです。ただ、小犬でも主人の食卓から落ちるパンくずはいただきます。」そのとき、イエスは彼女に答えて言われた。「ああ、あなたの信仰はりっぱです。その願いどおりになるように。」すると、彼女の娘はその時から直った。(マタ15・22〜28)

その理由はこうです。私たちが神に近づけば近づくほど、私たちは自分に頼むところが少なくなり、主にあってより強くなるのです。神を知れば知るほど、私たち自身は小さくなり、神への信頼がますます深まるのです。謙遜になるために、あなたの目と心を神ご自身で満たしていただきましょう。神がすべてであるところでは、自分のためだけの時間や場所はありません。

18 つまずき

私たちはみな、多くの点で失敗をするものです。もし、ことばで失敗をしない人がいたら、その人は、からだ全体もりっぱに制御できる完全な人です。

(ヤコ3・2)

このヤコブ書のみことばは、キリスト者が恵みによつて守られていない時の状態を描いています。この状態は、私たちの中にあるすべての希望を取り去ります。

あなたがたを、つまずかないように守ることができる方——唯一の神に、栄光、尊厳、支配、権威が、——永遠の先にも、今も、——ありますように。

(ユダ24、25)

このユダ書のみことばは、私たちをつまずきと混乱から守ることのできるお方に栄光と力と帰するように、神を指し示しています。それは、神に対する私たちの望みを堅くするのに役立ちます。

ほんとうに、自分の心の中で死を覚悟しました。これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。

(2コリ1・9)

しかし、主は真実な方ですから、あなたがたを強くし、悪い者から守ってくださいます。

(2テサ3・3)

「兄弟たちよ。熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。なぜなら、これらのことを行なっていれば、つまずくことなど決してないからです。」

(2ペテ1・10)

このペテロ第二の手紙のみことばは、わたしたちに全能者の守りの力にあずかる道（私たちが神によって選ばれたことを、敬虔な歩みの中で確かなものとする）を教えてくださいます。

その栄光と徳によつて、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。

これらがあなたがたに備わり、ますます豊かになるなら、あなたがたは、私たちの主イエス・キリストを知る点で、役に立たない者とか、実を結ばない者になることはありません。

このようにあなたがたは、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストの永遠の御国にはいる恵みを豊かに加えられるのです。

(2ペテ1・4、8、11)

これらのみことばは、私たちを勤勉で誠実な注意深さへと導くのに役立っています。

誘惑に陥らないように、目をさまして、祈っていなさい。心は燃えていても、肉体は弱いのです。

(マタ26・41)

ですから、あなたがたは、心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現われのときあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。

(1ペテ1・13)

新しいキリスト者にとって、自分のつまずきについてどのような考えればよいかは、しばしば難しい問題です。この点に関して、特に二つの間違いをしないよう警戒しなければなりません。ある人たちは、つまずくと落胆してしまいます。自分の明け渡しが真実ではなかったのだと思い、神への確信を失ってしまいます。

しかし、キリストは御子として神の家を忠実に治められるのです。もし私たちが、確信と、希望による誇りとを、終わりまでしっかりと持ち続けるならば、私たちが神の家なのです。

もし最初の確信を終わりまでしっかりと保ちさえすれば、私たちは、キリストにあずかる者となるのです。

(ヘブ3・6、14)

ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはなりません。それは大きな報いをもたらすものなのです。

(ヘブ10・35)

また、ある人たちはつまずくのは仕方のないことだと、ごく軽く考えてしまいます。彼らはつまずきに対してあまりにも軽く考え、つまずいた状態が普通だと考えてしまいます。その人た

ちは、つまずきにほとんど関心を払おうとしないで、つまずいたまま生活し続けるのです。

それでは、どういうことになりますか。恵みが増し加わるために、私たちは罪の中にとどまるべきでしょうか。(ロマ6・1)

これらのみことばは、自分たちのつまずきについて、私たちがどのように考えるべきだと教えているのでしょうか？
三つの教訓が挙げられます。

一、つまずきが、あなたを失望させることのないようにしましょう。

あなたは完全になるように召されたのですが、すぐにはそうなりません。それには時間と忍耐が必要です。ヤコブは、「その忍耐を完全に働かせなさい。そうすれば、あなたがたは、何一つ欠けたところのない、成長を遂げた、完全な者となります。」(ヤコ1・4) と言っています。

だから、あなたがたは、天の父が完全なように、完全でありなさい。

(マタ5・48)

それは、神の人が、すべての良い働きのためにふさわしい十分に整えられた者となるためです。

(2テモ3・17)

あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあつてその永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみのあとで完全にし、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます。

(1ペテ5・10)

あなたの明け渡しが真実ではなかったと考えてはいけません。自分がまだいかに弱いかだけを認めましょう。そして、自分はこれからつまずき続けるのだと信じてはなりません。ただあなたの救い主が、如何に強いお方であるかだけを認めましょう。

二、つまずいたことが、力強く守ってくださいるお方を信頼するように自分を奮起させる機会としなさい。十分な信仰をもって主に頼っていなかったために、あなたはつまずいたのです。

イエスは「来なさい。」と言われた。そこで、ペテロは舟から出て、水の上を歩いてイエスのほうに行つた。ところが、風を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、「主よ。助けてください。」と言つた。そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。「**信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。**」(マタ14・29〜31)

つまずきがあなたを主に向かわせるようにしましょう。つまずいた時に、まず最初になすべきことは、そのつまずきをもつ

て、イエスさまのみもとへ行くことです。自分のつまずきを、イエスさまに告白するのです。

もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。

(1ヨハ1・9)

私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の御前で弁護してくださる方があります。それは、義なるイエス・キリストです。(1ヨハ2・1)

主に告白して、赦しを受けるのです。主があなたを守ってくださいることを信じて、弱さをもったそのままの姿で、自分自身を主に委ねましょう。「私を守ってくださいる力ある主に栄光があるように：」と、絶えず賛美の歌を歌いましょう。

三、つまずきが、あなたを本当に賢明にさせるようにしましょう。

幸いなことよ。いつも主を恐れている人は。しかし心をかくなにする人はわざわざに陥る。

(箴28・14)

そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であつたように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐

れおののいて自分の救いを達成してください。

(ピリ2・12)

信仰によって、あなたは戦い、勝利するでしょう。あなたを守るお方の力と、このお方の助けからくる喜びと安全の中で、堅く立つ勇氣を持つことができるのです。自分が選ばれたことを強く確信すればするほど、すべてにおいて、ただ主のためだけに生き、主にあつて生き、主を通して生きること意識するようになるのです。

彼は言った。「ユダのすべての人々とエルサレムの住民およびヨシャパテ王よ。よく聞きなさい。主はあなたがたにこう仰せられます。『あなたがたはこのおびただしい大軍のゆえに恐れではない。氣落ちしてはならない。この戦いはあなたがたの戦いではなく、神の戦いであるから。』」(2歴20・15)

神、その道は完全。主のみことばは純粹。

主はすべて彼に身を避ける者の盾。私は、敵を追つて、これに追いつき、絶ち滅ぼすまでは引き返しませんでした。

(詩18・30、37)

そうすれば、あなたは決してつまづくことはない、みことばは言っています。

祈り

主イエスさま。つまずきや墮落は、あなたの御名に栄光をもたらしません。あなたは、私をつまづかないよう守ることのできる力あるお方です。力と權威はあなたのものです。私はあなたを私の守り手として頂いています。私を選んでくださったあなたの愛に目を注ぎます。そして「あなたはつまづくことはありません。」とのみことばが成就するのを待ち望みます。アーメン。

課題

一、神の恵みは、あなたの上に何を成就することができるのかということについてのあなたの考えを、神のみことばだけから引き出しましょう。私たちはしょっちゅうつまずいていなければならない者なのだという、つい陥りがちな考えは間違っています。それらの思いこみは、いくつかの理由によって強められています。すなわち、すべてを明け渡すことを密かにいやがっています。あまりにも多くの生ぬるいクリスチャンの例があります。神が私たちを本当に守ってくださることが全く理解できないという不信仰があります。自分自身の力で努力して失敗したという、数多くの失望の経験があります。

二、どんなつまずきでも、あまり重要には思えないという理由で、大目に見てはなりません。

19 イエスさまが守ってください

主は、あなたを守る方。主は、あなたの右の手をおおう陰。主は、すべてのわざわいから、あなたを守り、あなたのいのちを守られる。

(詩121・5、7)

そのために、私はこのような苦しみにも会っています。しかし、私はそれを恥とは思っていません。というのは、私は、自分の信じて来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日のために守ってくださいることができることを確信しているからです。(2テモ1・12)

「主は、私たちを受け入れてくださっているだけでなく、私たちを守ってくださいること。」新しいまだ弱いキリスト者にとつて、これ以上に必要な学課はありません。

見よ。わたしはあなたとともにあり、あなたがどこへ行っても、あなたを守り、あなたをこの地に連れ戻そう。わたしは、あなたに約束したことを成し遂げるまで、決してあなたを捨てない。

(創28・15)

主は荒野で、獣のほえる荒地で彼を見つけ、これをいただき、世話をし、ご自分のひとみのように、これを守られた。

(申32・10)

パウロが次の栄光あるみことばを書いた時「主は、私たちを受け入れてくださっているだけでなく、私たちを守ってくださいること。」新しいまだ弱いキリスト者にとつて、これ以上に必要な学課はありません。麗しい御名「主はあなたを守る方」を、私たちの心にとどめていなければなりません。

「私は、自分の信じて来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日のために守ってくださいることができることを確信しているからです。」(2テモ1・12)

パウロから、この学課を学びましょう。

私たち自身を主に預けること、すなわち主に委ねることを、イエスさまから学びましょう。パウロは自分自身を、身も心もイエスさまに預けました。パウロはそうしました。あなたもまた、自分自身を主に明け渡したのですが、明け渡しは一度きりではなく毎日継続して行なう必要があることを、あなたはまだはつきりと理解していないかもしれません。毎日明け渡ししましょう。主が安全を確保してください。高価な代償として、あなたの魂をイエスさまに預けましょう。生活のすべての面でそうしましょう。

自分自身の力では耐えることができないように思えることが、何かありませんか？あなたの心は、この世に支配されていますか？

彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。――主の御告げ。――わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

(エレ31・33)

あなたの口は、無駄話しをしすぎていませんか？

主よ。私の口に見張りを置き、私のくちびるの戸を守ってください。

(詩141・3)

あなたの気性は、激しすぎませんか？

あなたのみおしえを愛する者には豊かな平和があり、つまずきがありません。

(詩119・165)

何も思い煩わないで、あらゆるばあいに、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。

(ピリ4・6、7)

主を信じている者であることを明らかにすることに、弱すぎるのではありませんか？

そのとき、主は御手を伸ばして、私の口に触れ、主は私に仰せられた。「今、わたしのことばをあなたの口に授けた。」

(エレ1・9)

そこで、主があなたの内に神の約束を成就されるために、イエスさまが守ってくださるように、問題を主に預けることを学びましょう。

私たちが罪に対して祈り戦っても、結局骨折りに終わることがしばしばあります。そうなる理由は、私たちが自分で罪に打ち勝とうとするからです。そうではなく、問題をすべてイエスさまにお任せしましょう。「戦いはあなたのもではなく、主のもの」だからです。

彼らを恐れてはならない。あなたがたのために戦われるのはあなたがたの神、主であるからだ。

(申3・22)

彼（ヤハジエル）は言った。「ユダのすべての人々とエルサレムの住民およびヨシヤパテ王よ。よく聞きなさい。主はあなたがたにこう仰せられます。『あなたがたはこのおびただしい大軍のゆえに恐れてはならない。気落ちしてはならない。この戦いはあなたがたの戦いではなく、神の戦いであるから。』」（歴20・15）

その問題を、主の御手の中に置き、手を引きなさい。主があなたのために事を行われることを信じましょう。

私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。

(1ヨハ5・4)

家にはいられると、その盲人たちはみもとにやって来た。イエスが「わたしにそんなことができると思ってるのか。」と言われると、彼らは「そうです。主よ。」と言った。(マタ9・28)

しかしあなたはまず、その問題をまず完全に手放し、主の御手に置かなければなりません。あなたの信頼を、ただイエスさまの力にのみ置くことを、パウロから学びましょう。イエスさまは、私が預けたものを、確かに守ることがおできになります。あなたは、あなたを守る全能のイエスさまを持っているのです。信仰は、イエスさまの力にだけ頼り続けます。

人々は驚いてこう言った。「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

(マタ8・27)

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの權威が与えられています。」

(マタ28・18)

彼は、神には人を死者の中からよみがえらせることもできると考えました。それで彼は、死者の中からイサクを取り戻したのです。これは型です。

(ヘブ11・19)

神が、あなたのために何がおできになるかを覚えて、あなたの信仰を力づけましょう。

神には約束されたことを成就する力があることを強く信じました。(ロマ4・21)

あなたはいったいだれなので、他人のしもべをさばくのですか。しもべが立つのも倒れるのも、その主人の心次第です。このしもべは立つのです。なぜなら、主には、彼を立たせることができるからです。

(ロマ14・4)

神が、あなたの力をはるかに越えて、偉大で輝かしいことをなしてくだることを、確かなこととして期待しましょう。神の力が、いつでも神の民の信頼の根拠となっていたことを、聖書から読み取ってください。これらのみことばを取り出して、あなたの心の中に大切に持っていました。イエスさまの力であなたの魂を満たしてください。そして、ただこのようにたずねるのです。「私のイエスさまには、何がおできになるのでしょうか？」あなたが本当に主に信頼したことを、主は守ることがおできになるのです。

主も、あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者として、最後まで強く保ってくださいます。神は真実であり、その方のお召しによって、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました。

(1コリ8・9)

自分が主にお任せしたものを、この力が守ってくださるという確信を、パウロはどこから得たのでしょうか？その確信は、彼のイエスさまに関する知識の中にあつたのです。「私は、自分の信じてきた方をよく知っており、それゆえに、私は確信しているのです。」と。

わたしは良い牧者です。わたしはわたしのものを知っています。また、わたしのものは、わたしを知っています。

わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。

(ヨハ10・14、28)

父たちよ。私があなたがたに書き送るのは、あなたがたが、初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。私があるがたに書き送るのは、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。小さい者たちよ。私があるがたに書いて来たのは、あなたがたが御父を知ったからです。父たちよ。私があるがたに書いて来たのは、あなたがたが、初めからおられる方を、知ったからです。若い者たちよ。私があるがたに書いて来たのは、あなたがたが強い者であり、神のみことばが、あなたがたのうちにとどまり、そして、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。

(1ヨハ2・13、14)

イエスさまがあなたのものだを知っているなら、そして友としてイエスさまと語り合っているなら、あなたはイエスさまの力を信頼することができます。その時あなたは、「私は、自分の信じてきた方をよく知っています。主が、私を心から愛して支えてくださったことを私は知っています。主は、私がお任せしたものを守ることがおできになるということを私は知り、また確信しています。」と言うことができるのです。

そのために、私はこのような苦しみにも会っています。しかし、私はそれを恥とは思っていません。というのは、私は、自分の信じて来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日のために守ってくださることができる

(2テモ1・12)

これが、信仰の全き確信に至る道です。あなたのものをイエスさまに預けなさい。あなた自身をすっかり差し出しなさい。すべてを差し出しなさい。あなたの考えを主の御力に基づかせ、主に抛り頼みなさい。そして、主がどのような方であるのか、どんなお方を信じてきたのかをいつも知ることができるように、主とともに生活しなさい。

新しいキリスト者の友よ。次のみことばを受け取ってください。「主はあなたを守られるお方」です。あらゆる弱さやあらゆる誘惑について、あなたの魂を守っていたくために、主に預けることを学びましょう。あなたが主の守りに頼むことがで

きたなら、あなたはそのことを、喜びにあふれて叫ぶことができるのです「主は、すべてのわざわいから私を守られる！」と。

わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。

(ヨシ1・9)

たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわいを恐れません。あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。

(詩23・4)

私たちをキリストの愛から引き離すのはだれですか。患難ですか、苦しみですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。

しかし、私たちは、私たちを愛してくださった方によって、これらすべてのことの中にあっても、圧倒的な勝利者となるのです。

(ロマ8・35、37)

祈り

聖なるイエスさま。私はあなたを、私を守ってくださるお方として受け取ります。「あなたを守られる主」、この御名を一日中、心の歌として響かせてください。ひとつひとつの必要の中で私の問題をあなたにお預けすることと、あなたがそれを守る

ことがおできになると確信すべきであることを、私に教えてください。アーメン。

課題

一、長い間、多くの祈りをもって自分の気性と戦い続けたにもかかわらず、勝利を得ることができなかった女性がいました。ある日、彼女は、この問題に勝利する力を熱心な祈りによって得るまでは、自分の部屋から出ないことを決心しました。今度は成功するだろうとの判断に達して、部屋を出ました。その後、家庭の中で何か腹立たしいことが起こり、彼女はまた怒ってしまいました。彼女は深く恥じ入り、泣き出して、自室に駆け込んで行きました。彼女よりも信仰の道をよく知っていた娘が、彼女のところへ来て言いました。「お母さん、私はお母さんの苦闘を見てきたわ。何がお母さんの妨げになっているのか、私の思っていることを言ってもいい?」「いいわよ。」

「お母さん、お母さんは短気な気性と闘って、お母さんがそれに打ち勝てるように助けてください、と主に祈ってきたのよね。それが間違っているわ。主お一人がこのことをされなければならぬのよ。お母さんは自分の気性をすっかり主の御手に差し出してしまわなければならないの。そうしたら、主はそれを完全に受け取って、お母さんを守ってくださいるわ。」母親は、このことを最初は理解できませんでしたが、後になって明らかにされました。そして彼女は、イエスさまが私たちを守ってください、私たちは信仰によって勝利を得る、という生活の

祝福を享受したのです。あなたは、このことを理解していますか？

二、「主は、私が罪に打ち勝つのを助けてくださらなければなりません。」この表現は、新約聖書の教えから全く外れていません。神の恵みは、私たちを助けるためにやって来るのではなくありません。神がすべてをなされます。「御霊は、私を罪の原理から解放してくださいました。」

三、あなたが主に守っていただくために何かを明け渡す時、二つのことに注意してください。それを主の御手に完全に渡してしまうこと、そしてそこに置いたままにすることです。主に完全に受け取ってもらうのです。そうすれば、主はあなたの最も深い願いを満たされるでしょう。

20 弱さの中の力

しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。

(2コリ12・9、10)

「弱さ」ということばほど、キリスト者としての生活の中で、不完全な理解がされていることばはありません。弱さとは、罪、短所、不活発、不従順などのことなのだと言われています。弱さをこのようにとらえてしまうと、本当の意味での罪意識と、向上をめざしての誠実な努力は不可能です。

神が実行できる力を与えてくださらなかったことを、私ができなかったとして、罪意識を感じるべきでしょうか？神は、ご自身が準備を整えておられないことを、子どもたちにさせることを要求してはおられません。神は、新しい契約のもとでは、それをなさいません。神は、聖霊によって私たちに事を成す力を与えずして、何かをするように要求なさることはありません。新しい生活は、御霊を通して、キリストの力によって生きる生活なのです。

人が自分の弱さを高く評価しすぎるのではなく、控えめに評価しすぎる考え方が誤りなのです。彼らは、自分の持てる限りの力

と神の助けを働かせて事を成そうとします。神の前で自分たちが、なきに等しいものとなる必要性を理解しないのです。

働く者のばあいに、その報酬は恵みでなくて、当然支払うべきものとみなされます。何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。

(ロマ4・4、5)

しかし神は、知恵ある者をはずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をはずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです。

(1コリ1・27、28)

あなたは、自分にはまだ多少の力があり、その弱々しい力に神がご自身の力を加えて、自分を助けてくださらなければならぬと考えるはいませんか。その考えは間違っています。私たちの弱さとは、私たち自身には何もできないということです。ですから、むしろ、全くの無能と言った方がまだよいのです。それが、みことばが「弱さ」ということばで意味していることなのです。

わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」

(ヨハ15・5)

私たちの内には、全く力がないのです。

私たちの神よ。あなたは彼らをさばいてくださらないのですか。私たちに立ち向かって来たこのおびただしい大軍に当たる力は、私たちにはありません。私たちとしては、どうすればよいかわかりません。ただ、あなたに私たちの目を注ぐのみです。

(2歴20・12)

新しいキリスト者が自分の弱さを認める時はいつでも、イエスさまの力についての秘密を理解することを学びます。その時彼は、強くなるためや強いと感ずるために、待ち望んだり祈ったりするべきではないことを理解します。そのとおりです。彼は自分の無力さの中で、イエスさまの力を持つべきなのです。信仰によってその力を受け取るべきであり、イエスさまの力は自分のためのものであり、イエスさまご自身が自分の中で、自分を通して働かれるのだと計算するべきなのです。

ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは、むだにはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。しかし、それは私ではなく、私にある神の恵みです。

(1コリ15・10)

また、あなたがたの心の目がはっきり見えるようになって、神の召しによって与えられる望みがどのようなものか、聖徒の受け継ぐものがどのようにに栄光に富んだものか、また、神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのようなに偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。

(エペ1・18、19)

その時、「わたしの力は、(あなたの)弱さのうちに完全にあらわれるのである」と言われた主のみことばの意味が、その人にとって明確になるのです。そしてその人は、「私が弱い時にこそ、私は強いのです。」と知るのです。そうです。私が弱ければ弱いほど、私は強くなるのです。そしてパウロと共に賛美することを学ぶのです。

「私は、弱さの中にあつて喜びます。」

「私たちは、私たちが弱い時にこそ喜びます。」

しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。

ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。私は愚か者になりました。あなたがたが無理に私をそうしたのです。私は当然あなたがたの推薦を受けてよかったはずです。たとい私は取るに足りない者であつて

も、私はあの大使徒たちにどのような点でも劣るところはありませんでした。

(2コリ12・9～11)

自分自身の内には何も持たず何も感じず、いつも主の力で生きる人にとつて、信仰生活がどんなに栄光あるものとなるかは驚くばかりです。その人は、神を自分の力として知ることが、どんなに喜ばしいことであるかを理解します。

主は、私の力であり、ほめ歌である。主は、私の救いとなられた。

(詩118・14)

その人は、詩篇がしばしば表明することの中に生きるのです。

「主は私の力。私はあなたを愛しています。」

「私はあなたの御力をほめ歌います。私の力でえられるあなたに、ほめ歌を歌います。」

主は私の力、私の盾。私の心は主に拠り頼み、私は助けられた。それゆえ私の心はこおどりして喜び、私は歌をもつて、主に感謝しよう。主は、彼らの力。主は、その油そそがれた者の、救いのとりで。

(詩28・7、8)

神はわれらの避け所、また力。苦しむとき、そこにある助け。

(詩46・1)

その人はまた、次の詩篇のみことばの意味を理解します。

力ある者の子らよ。主に帰せよ。栄光と力とを主に帰せよ。

主は、ご自身の民に力をお与えになる。主は、平安をもつて、ご自身の民を祝福される。

(詩29・1、11)

私たちがすべての力を神に帰する時、神は再びその力を私たちに与えられます。

若い者たちよ。私があるあなたがたに書いてきたのは、あなたがたが、強い者であり、神のみことばが、あなたがたの内にとどまり、そして、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。

(1ヨハ2・14)

キリスト者は、主にあって強いのです。

神なる主よ。私は、あなたの大能のわざを携えて行き、あなたの義を、ただあなただけを心に留めましょう。(詩71・16)

時には強く、時には弱いではありません。いつも弱いがゆえに、いつも強いのです。ただ主の力を知り、主に信賴してその力を用いなければならないのです。「強くありなさい。」というのは命令であり、従うべきみことばです。従うところに力が増し加えられます。

雄々しくあれ。心を強くせよ。

(詩27・14)

主にあって、その大能の力によって強められなさい。

(エペ6・10)

信仰によってキリスト者は、命令に単純に従わなければなりません。

待ち望め。主を。雄々しくあれ。心を強くせよ。待ち望め。主を。(詩27・14)

しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかつて上ることができる。走ってもたゆまず、歩いても疲れない。

(イザ40・31)

祈り

主イエスさまの神、栄光の御父よ。知恵の霊と、イエスさまを知る啓示の御霊を、私たちに与えてくださり、信じる私たちに働くキリストの力がどれほど偉大なものであるかを、知ることができるようになしてください。

課題

一、キリスト者が神に仕えることや、聖化にあずかることを何か大変で難しいことと考えている限り、成長することはありません。実にこのことは、自分には不可能であることを知らなければなりません。その時その人は何かを自分でやろうとする努

力を止めて、キリストが自分の中ですべてをなされるように、自分を明け渡すでしょう。

二、私たちが自分の弱さをつぶやく時、往々にしてそれは、私たちが自分の怠慢さを弁解しているにすぎません。キリストの内にある力は、苦勞してでもそれを得ようとする者に与えられるのです。

三、「主にあって、その大能の力によって強められなさい。」

(エペ6・10)

この命令に従いましょう。私たちが、主とその大能の力にとどまるならば、私たちは強くなるのです。主の力を持つためには、主ご自身を持たなければなりません。力は、主のものであり、相変わらず主のものです。弱さは、相変わらず私のものであります。強いお方であられる主が、弱さそのものである私の内に働かれます。弱い私は、強いお方であられる主に信仰によってとどまります。そして私は、弱いけれども同時に強い者であるということです。

四、力は働きのためのものです。ただ聖くなるためだけに強くなるうとする者は、強くなれません。けれども自分の弱さの中にある、主のために働き始めようとする者は強くなるのです。

21 感情による生活

確かに、私たちは見るところによってではなく、信仰によって歩んでいます。

(2コリ5・7)

見ずに信じる者は幸いです。

(ヨハ20・29)

もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。

(ヨハ11・40)

生まれ変わったあなたにとって、感情ほど、信仰の歩みを妨げるものではありません。あなたは多分、何年もの間、回心後は何かを経験したり、感じたり、知覚したりするはずだと考えていたでしょう。神があなたを受け入れてくださり、あなたの罪は赦されたということを、ただみことばによって、何の感情もなしに信じるのは、危険すぎるように思えるかもしれません。しかし、感情を伴わない信仰の道こそが、神のみことばの道であることを、あなたは遂に認めたのです。それがあなたに対する救いの道です。信仰によってのみあなたは救われているのです。あなた之魂は安息と平安を得ているのです。

何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。(ロマ4・5)

そのようなわけで、世界の相続人となることは、信仰によるのです。それは、恵みによるためであり、こうして約束がすべての子孫に、すなわち、律法を持っている人々にだけでなく、アブラハムの信仰にならう人々にも保証されるためなのです。「わたしは、あなたをあらゆる国の人々の父とした。」と書いてあるとおりに、アブラハムは私たちすべての者の父なのです。

(ロマ4・16)

キリスト者の生活において、感情ほど執拗で危険な誘惑はありません。「感情」ということばは、聖書の中には見当たりません。私たちが「感情」と呼ぶことを、聖書は「見ること」と呼んでいます。「見ること」によってではなく、それとは反対の「信じること」によって救いが与えられると、聖書は繰り返し言っています。「アブラハムは」自分のからだに死んだもの同然であることを認めても、その信仰は弱りませんでした。(ローマ4・19)「信仰は、神の言われることをそのとおりに受け取り保持します。今見ようとする(感じようとする)不信仰は、(望むものを)見ることはしないでしよう、しかし、神の約束だけで十分であるとするなら、神の栄光を見るのです。

もし、あなたがたが信じなければ、長く立つことはできない。

(イザ7・9)

ところが、嵐を見て、こわくなり、沈みかけたので叫び出し、「主よ。助けてください。」と言った。そこで、イエスはすぐに手を伸ばして、彼をつかんで言われた。「信仰の薄い人だな。なぜ疑うのか。」
(マタ14・30、31)

感情を求めて何も感じられないことを嘆く人は、求めるものを見ることはないでしょう。けれども、感情に心を捕らわれない人は、それを溢れるばかりに経験するのです。

いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです。
(マタ16・25)

みことばに信頼しているなら、後で本物の感情が聖霊によって与えられるのです。

またあなたがたも、キリストにあつて、真理のことば、すなわちあなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことによつて、約束の聖霊をもつて証印を押されました。

(エペ1・13)

新しいキリスト者の方々。信仰によつて生きることを選びましょう。信仰こそ祝福された生活への神の道であることを、しっかりと覚えていましょう。祈っている時に神のご臨在が感じられなくても、霊的に冷めていて鈍く感じられる時にも、信仰によつて生活しましょう。あなたの信仰によつてイエスさまを身近なお方として見上げ、イエスさまの力と真実を見上げましょう。

う。イエスさまに差し出すものが何もなくても、イエスさまはあなたにすべてを与えてくださることを信じましょう。感情はいつも、感情自体の中に何かを探しますが、信仰は、イエスさまがどのようなお方であられるかということ自分で自身を満たします。

そのために、私はこのような苦しみにも会っています。しかし、私はそれを恥とは思っていません。というのは、私は、自分の信じて来た方をよく知っており、また、その方は私のお任せしたものを、かの日のために守ってくださることができると確信しているからです。
(2テモ1・12)

信仰によつて、エノクは死を見ることのないように移されました。神に移されて、見えなくなりました。移される前に、彼は神に喜ばれていることが、あかしされていました。信仰がなくでは、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることとを、信じなければならぬのです。
(ヘブ11・6)

みことばを読んで何の興味や祝福も感じない時でも、なお信仰を持つてもう一度読み返しましょう。そうすれば、みことば自身が働いて祝福をもたらします。「みことばは信じる者の内に働く」のです。自分の内に愛を感じない時には、イエスさまの愛を信じて、信仰をもつて、「私が今も主を愛していることは、主がご存じだ。」と言いましょ。喜びの気持ちが全くな

い時には、あなたのためにイエスさまのうちにある、ことばに尽くすことのできない喜びを信じましょう。信仰は祝福であり、喜びをもたらすのです。その喜びは、喜びから湧きでる自己満足を求める者ではなく、信仰から湧きでる神の栄光を求める者に与えられるのです。

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きていたのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のために「ご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。」

(ガラ2・20)

あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現わされるように用意されている救いをいただくのです。そういうわけで、あなたがたは大いに喜んでいます。いまは、しばらくの間、さまざまの試練の中で、悲しまなければならぬのですが、信仰の試練は、火を通して精練されてもなお朽ちて行く金よりも尊いのであって、イエス・キリストの現われのときに称賛と栄光と栄誉に至るものであることがわかります。あなたがたはイエス・キリストを見たことはいずれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。

(1ペテ1・5-8)

イエスさまは、確かに次のみことばを成就してください。
「見ずに信じる者は幸いです。」(ヨハ20・29)、「もしあ

なたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」(ヨハ11・40)

キリスト者は、信仰による生活と感情による生活のどちらかを日々選択しなければなりません。きっぱりと堅固な決心をしており、毎朝新たに、正しい選択をする人は幸いです。正しい選択とは、感情に目を向けたり耳を傾けたりせず、ただ神の御心に従って信仰によって歩む選択を新たにすることです。神が語っておられるみことばで、すなわち神ご自身と御子イエスさまが共におられるみことばで占領されている信仰は、神にある生活の祝福を味わうでしょう。感情は、感情それ自身を求め目的とします。信仰は神に栄光を帰し、そして神によって誉れを与えられます。信仰は神を喜ばせ、そして信仰者は、自分が神に受け入れられているとの証しを心の中に受け取ります。

祈り

主なる神様。あなたがあなたの子どもたちに望まれるただ一つのことは、彼らがあなたを信頼し、いつも信仰によって、あなたとの交わりの中にいることです。主よ、あなたに栄光を帰し、目には見えないあなたをしっかりと捉える信仰によってあなたを喜ばせ、すべてのことにおいてあなたを信頼することが、私が喜びを見いだそうとするただひとつのことでもありますように。

課題

一、新しい生活には、驚くべきものが隠されています。それを新しいキリスト者に説明することは簡単ではありません。恵みの生活を続けていった後で、聖霊がそれを理解させてくださるのです。イエスさまは、山上の垂訓の最初のことばの中に、その生活の土台を据えられました。「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人のものだからです。」極度の貧しさと王室の豊かさ、完全な弱さと王にふさわしい力の感覚が、同じ人の中に共存しているのです。何も持っていないということと、キリストの内にすべてを持つていること、これが信仰の秘訣です。そして本当の信仰の秘訣はこれを実践することであり、不毛と空しさの中にあってもなお、私たちはキリストの内にすべてを持つているということを知ることなのです。

二、神のみことばが何度も語る信仰とは、私たち自身の行ないに対立しているだけではなく、感情にも対立していることを忘れてはなりません。ですから、混じりけの無い信仰生活を送るためには、行ないのみならず、感情の中に救いを求めることをやめなければなりません。信仰にいつも感情に向かって語らせなさい。感情が、「私は罪深く、暗く、弱く、貧しく、悲しい。」と言う時には、信仰に、「私はキリストにあつてきよく、明るく、強く、豊かで、喜んでいる。」と言わせなさい。

22 聖霊

そして、あなたがたは子であるゆえに、神は「アバ、父。」と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。

(ガラ4・6)

御父の偉大な贈り物であるお方、そのお方を通して神が救いを行われ、私たちの身近なものとしてくださったお方、それは御子イエスさまです。一方、私たちに内面の有効な救いを与えるために、御子が御父のもとから送ってくださいった偉大な贈り物は聖霊です。

わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。

しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

(ヨハ14・16、26)

あなたがたは神の神殿であり、神の御霊があなたがたに宿っておられることを知らないのですか。

(1コリ3・16)

御子が御父を啓示し栄光を現すように、聖霊は御子を啓示し栄光を現します。

御霊はわたしの栄光を現わします。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。父が持つておられるものはみな、わたしのものです。ですからわたしは、御霊がわたしのものを受けて、あなたがたに知らせると言ったのです。

(ヨハ16・14、15)

神はこれを、御霊によって私たちに啓示されたのです。御霊はすべてのことを探り、神の深みにまで及ばれるからです。

ところで、私たちは、この世の霊を受けたのではなく、神の御霊を受けました。それは、恵みによって神から私たちに賜わったものを、私たちが知るためです。(1コリ2・10、12)

聖霊は、私たちの内におられ、イエスさまにあつて用意されたいのちと救いを、私たちのところへもたらしてください、それらを完全に私たちのものとしてくださるのです。

なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

(ロマ8・2)

こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いているあなたがたが、すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解す

る力を持つようになり、人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができまうように。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされまうように。

(エペ3・17、19)

天におられるイエスさまが聖霊を通して私たちの内に臨在され、私たちの内に住まわれます。

私たちがイエスさまに与るためには、常に次の二つのことが必要であることを見てきました。それは、私たちの内にある罪について知ることと、イエスさまの内にある贖いについて知ることです。信仰者の中にこの二つの働きを絶えず促すのは聖霊です。聖霊は、私たちを戒めて慰め、罪を悟らせてキリストの栄光を現わします。

罪についてというのは、彼らがわたしを信じないからです。

御霊はわたしの栄光を現わします。わたしのものを受けて、あなたがたに知らせるからです。
(ヨハ16・9、14)

聖霊は罪を悟らせまう。聖霊は、罪を明るみに出して焼き尽くす神の光であり、火です。聖霊は、神がご自身の民をきよめるためにさばきをし、焼き尽くされる霊です。

主が、さばきの霊と焼き尽くす霊によって、シオンの娘たちの汚れを洗い、エルサレムの血をその中からすすぎ清めるとき、

(イザ4・4)

私は、あなたがたが悔い改めるために、水のバプテスマを授けていますが、私のあとから来られる方は、私よりもさらに力のある方です。私はその方のはきものを脱がせてあげる値うちもありません。その方は、あなたがたに聖霊と火とのバプテスマをお授けになります。手に箕を持っておられ、ご自分の脱穀場をすみずみまできよめられます。麦を倉に納め、殻を消えない火で焼き尽くされます。

(マタ3・11、12)

自分の罪をあまり深く感じられないとつぶやく人に対して、悔い改めがどんなに深くなければならぬかについては、限界がないと言わねばなりません。そのような人は、毎日、ありのままの姿で、主の前に出なければなりません。深い確信は、しばしば回心の後に与えられます。

新しいキリスト者に対しては、単純に次のように言わなければなりません。「あなたの内に住まわれる聖霊が、あなたに罪を悟らせるようにしなさい。聖霊は、あなたが以前はそのことばを知っていたにすぎなかった『罪』を、あなたが憎むようにされるでしょう。聖霊は、あなたの心の奥に隠されていて今まで見えなかった罪を、あなたが知り、恥じて、告白するようにされるでしょう。聖霊は、自分は罪から自由だと思い、他の人の罪を厳しくさばいていたあなたに、あなたの中にある罪を指摘されるでしょう。」

私はあなたの御霊から離れて、どこへ行けましょう。私はあなたの御前を離れて、どこへのがれましょう。

神よ。私を探り、私の心を知ってください。私を調べ、私の思い煩いを知ってください。
(詩139・7、23)

偽善者たち。まず自分の目から梁を取りのけなさい。そうすれば、はつきり見えて、兄弟の目からも、ちりを取り除くことができます。
(マタ7・5)

しかし、もしみなが預言をするなら、信者でない者や初心の者はいって来たとき、その人はみなの方によって罪を示されます。みなにさばかれ、心の秘密があらわにされます。そうして、神が確かにあなたがたの中におられると言って、ひれ伏して神を拝むでしょう。
(1コリ14・24、25)

そして聖霊は、あなたが罪から贖われ聖められるために、悔い改めの心をもって恵みに全く自分を投げ出すことを教えてくださるでしょう。

愛するキリスト者の方々。聖霊は、罪を明るみに出して焼き尽くす神の光であり火としてあなたの内におられます。神の神殿は聖いのです。そして、あなたこそその神殿なのです。あなたの内におられる聖霊に、罪を指摘し締め出すための全面的な支配権を持っていただきますよう。

あなたのしもべを、傲慢の罪から守ってください。それらが私を支配しませんように。そうすれば、私は全き者となり、大きな罪を、免れて、きよくなるでしょう。
(詩19・13)

主は御霊です。そして、主の御霊のあるところには自由があります。
(2コリ3・17)

聖霊があなたに罪を知るようにされた後、聖霊は、あらゆる点でイエスさまがあなたのいのちであり聖潔であることを知らせてくださるでしょう。

そしてその後、あなたを責められる聖霊は、また慰めてもくださいます。聖霊は、あなたの内にはイエスさまの栄光を現わし、イエスさまの内にあるものを、あなたが知るようにしてください。聖霊は、罪をきよめるイエスさまの血潮の力と、私たちを守られる内住のイエスさまの力に関する知識を与えてくださるでしょう。

こうしてキリストが、あなたがたの信仰によって、あなたがたの心のうちに住んでくださいますように。また、愛に根ざし、愛に基礎を置いてあるあなたがたが、すべての聖徒とともに、その広さ、長さ、高さ、深さがどれほどであるかを理解する力を持つようになり、人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。どうか、私た

ちのうちに働く力によって、私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方に、教会により、またキリスト・イエスにより、栄光が、世々にわたって、としえまでありますように。アーメン。

(エペ3・17、20)

あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりのときに現わされるように用意されている救いをいただくのです。

(1ペテ1・5)

聖霊は、イエスさまが、正に書かれてあるとおり、正に完全に、正に確かに、毎瞬間あなたとともにおられ、ご自身のわざをあなたの内になされるのであることを、分らせてくださるでしょう。

聖霊を通して、生きておられる、全能の、常に存在されるイエスさまがあなたの分け前となるのです。あなたはこの事実を知り、それをおおいに喜ぶようになるでしょう。聖霊はあなたに、すべての罪と罪深さをイエスさまのもとに持つてくると、イエスさまを、罪からの完全な贖いをあなたのものであるとしてくださるお方として知ることを教えてくださいます。聖めの御霊である聖霊は、イエスさまがあなたの内に住まわれるために、罪を追い出されるのです。

なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬのです。しか

し、もし御霊によって、からだの行ないを殺すなら、あなたがたは生きるのです。

(ロマ8・2、13)

父なる神の予知に従い御霊の聖めによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。どうか、恵みと平安が、あなたがたの上にますます豊かにされますように。

(1ペテ1・2)

愛するキリスト者の友よ。時間をかけてこの真理を理解し、心がその真理で満たされるようにしてください。聖霊はあなたの内におられるのです。このことを確かなこととするすべての神のみことばを再確認しましょう。

神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子どもです。あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父。」と呼びます。私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいます。

(ロマ8・14、16)

あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。

(1コリ6・19)

聖霊の内住なしでキリスト者として生きることを、決して考えるではありません。聖霊があなたの内に住まれ、力あるご自身のみわざをなされるという信仰で心が満たされるように努めましょう。なぜなら聖霊は、信仰を通して来られ働かれるからです。

このことは、アブラハムへの祝福が、キリスト・イエスによって異邦人に及ぶためであり、その結果、私たちが信仰によって約束の御霊を受けるためなのです。

(ガラ3・14)

私たちは、信仰により、御霊によって、義をいただく望みを熱心に抱いているのです。

(ガラ5・5)

あなたの内でなされる聖霊の働きに、深い畏敬の念を払いましょう。毎日、聖霊を求め、信じ、従い、信頼しましょう。そうすれば聖霊は、イエスさまにあるすべてのものを、あなたに教えてくださるのです。聖霊は、イエスさまをどんなにか輝かしいお方として、あなたに示してくださることでしょう。

祈り

ああ、私の父なる神様。イエス様があなたのもとから私に送ってくださいったこの贈り物（聖霊）のゆえに感謝します。私があ

なたの御霊の神殿であり、聖霊が私の内に往んでおられることを、あなたに感謝します。

主よ。私がこの事実を心から信じ、聖霊が私を導くお方として内住しておられることを知る者として、この世で生きることを教えてください。私が、深い畏敬の念とおののきをもって、「神が私のうちにおられる！」というこの事実を考えるように教えてください。この信仰において、私は聖となる力を持つのです。

聖霊さま。罪が私の内にあるという事実のすべてを明らかにしてください。聖霊さま。イエスさまが私の内におられるという事実のすべてを明らかにしてください。アーメン。

課題

一、聖霊のご人格と働きに関する知識は、キリストのご人格とみわざに関する知識と同じように重要であることを覚えましょう。

二、聖霊に関しては、聖霊がイエスさまの私たちのための働きの実として与えられており、聖霊が私たちの中のイエスさまのいのちの力であり、この聖霊を通してイエスさまご自身が、全き救いをもって私たちの内に住んでおられることを忘れてはなりません。

三、これらすべてのことを享受するために、私たちは御霊に満たされていなければなりません。これはただ、私たちがイエスさま以外の何物によつてでもなく、イエスさまによつて満たされることを意味します。自分を捨て、十字架を負い、イエスさまに従うこと、これがイエスさまの御霊に満たされる方法——いやむしろ、聖霊がご自身の満たしに私たちを導かれる方法——です。聖霊に導かれるのであれば、誰もイエスさまの死に与る力を持つことはありません。この満たしを望む人を、イエスさまは手を取って連れて行つてくださるのです。

四、救いの全体、新しい生活の全体が信仰によるのであるように、聖霊の賜物と働きについても同様に信仰によります。私は、行ないや感情によつてではなく、信仰によつて聖霊を受け取り、聖霊に導かれ、聖霊に満たされます。

五、イエスさまが私たちのために成し遂げてくださったみわざについて、私の信仰が明確で確固としたものであるように、聖霊が私の中で成し遂げてくださるみわざ——私の救いのために必要なすべてのみこととみわざ——を行われることについて、私の信仰は明確で確固としたものであるべきです。

23 聖霊の導き

神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子どもです。

私たちが神の子どもであることは、御霊ご自身が、私たちの霊とともに、あかししてくださいます。(ロマ8・14、16)

私たちを子どもとして導いてくださる聖霊は、私たちが神の子どもであることを証ししてくださいます。聖霊の導きがなくては、神と私たちとの関係を保証するものは何もありません。信仰の全き確信は、自分を聖霊の導きに完全にゆだねる人が享受することができなのです。

この導きは何を土台としているのでしょうか？第一に、私たちの内的生活のすべてが聖霊によって、そうあるべきところへと導かれているということです。このことを堅く信じなければなりません。私たちの成長、拡大、発展、進歩は、私たち自身の働きではなく聖霊の働きなのです。

この働きをされる聖霊を信頼しなければなりません。木や動物が、神から与えられたいのちによって成長するように、キリスト者も、イエス・キリストにあるいのちの御霊によって成長するのです。

なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえなさい。働きもせず、紡ぎもしません。

(マタ6・28)

また言われた。「神の国は、人が地に種を蒔くようなもので、夜は寝て、朝は起き、そうこうしているうちに、種は芽を出して育ちます。どのようにしてか、人は知りません。地は入手によらず実をならせるもので、初めに苗、次に穂、次に穂の中に実がいります。」

(マル4・26、28)

御父が与えてくださる聖霊が、神の知恵と力をもって私たちの隠れた生活の導いてくださり、その生活を神のものとされるところまで連れて来てくださることを、私たちは確信して喜ばなければなりません。

二、この導きには、特別な方向もあります。「(彼は) **あなたがたをすべての真理に導き入れます。**」(ヨハネ16・13)「神のことは読む時、真理すなわち、みことばの本質的な力を体験するために、聖霊を待ち望むべきです。聖霊は、みことばを生きた力あるものとします。聖霊は、私たちをみことばに一致した生活へと導かれます。」

いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話したことは、霊であり、またいのちです。

(ヨハ6・63)

しかし、助け主、すなわち、父がわたしの名によってお遣わしになる聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。

(ヨハ14・26)

こういうわけで、私たちとしてもまた、絶えず神に感謝しています。あなたがたは、私たちから神の使信のことばを受けたとき、それを人間のことばとしてではなく、事実どおりに神のことばとして受け入れてくれたからです。この神のことばは、信じているあなたがたのうちに働いているのです。

(1テサ2・13)

祈る時には聖霊の導きを期待することができます。「聖霊は弱い私たちを助けてくださいます。」聖霊は、私たちが切に求めるべきことへと導いてくださいます。聖霊は、私たちがそうあるべき祈り―すなわち信頼を持って、忍耐強く、力強く祈るに導いてくださいます。

御霊も同じようにして、弱い私たちを助けてくださいます。私たちは、どのように祈ったらよいかわからないのですが、御霊ご自身が、言いようもない深いうめきによって、私たちのためにとりなしてくださいます。人間の心を探り窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。

(ロマ8・26、27)

しかし、愛する人々よ。あなたがたは、自分の持っている最も聖い信仰の上に自分自身を築き上げ、聖霊によって祈り、神の愛のうちに自分自身を保ち、永遠のいのちに至らせる、私たち

の主イエス・キリストのあわれみを待ち望みなさい。

(ユダ20、21)

三、聖別される過程において、導いてくださるのは聖霊です。聖霊は、私たちを義の道に導かれます。聖霊は、すべての神のみこころへと導いてくださいます。

平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように。あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをしてくださいます。

(1テサ5・23、24)

四、私たちが主のために語ったり働いたりするとき、聖霊が導かれます。神の子どもはみな聖霊を持っています。神の子どもたちはみな、知るためにそして御父のみわざを行なうために聖霊の助けを必要とします。聖霊なしには、だれも御父を喜ばせることも仕えることもできません。聖霊の導きは幸いな特権であり、神の子どもの唯一の力です。

というのは、話すのはあなたがたではなく、あなたがたのうちにあって話されるあなたがたの父の御霊だからです。

(マタ10・20)

けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中にはなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストのものではありません。

もし肉に従って生きるなら、あなたがたは死ぬのです。しかし、もし御霊によって、からだの行ないを殺すなら、あなたがたは生きるのです。(ロマ8・9、13)

そして、あなたがたは子であるゆえに、神は「アバ、父。」と呼ぶ、御子の御霊を、私たちの心に遣わしてくださいました。

(ガラ4・6)

それでは、どうすればこの導きを十分に享受することができのでしょうか？このために必要なのは、第一に信仰です。新しいキリスト者の方々、あなたの内に聖霊がおられるという深い生き生きとした意識であなたの心が満たされるために、時間を掛けなければなりません。聖霊があなたの内におられ、あなたのためにおられることに関して、御父が栄光ある宣言をしておられるすべてのみことばを、自分が神の神殿であるとの確信に完全に満たされるまで読みなさい。この点に関する無知や不信仰は、聖霊があなたに語りかけてあなたを導くことを不可能にします。神の御霊があなたの内に住んでおられるという確信を保ちなさい。

この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。

(ロマ5・5)

とすれば、あなたがたに御霊を与え、あなたがたの間で奇蹟を行なわれた方は、あなたがたが律法を行なったから、そうだったのですか。それともあなたがたが信仰をもって聞いたからですか。

このことは、アブラハムへの祝福が、キリスト・イエスによって異邦人に及ぶためであり、その結果、私たちが信仰によって約束の御霊を受けるためなのです。(ガラ3・5、14)

必要なことの第二は、あなたが自身が静まって聖霊の御声に耳を傾けることです。主イエスさまが働かれるのと同じように、聖霊も働かれます。「彼は叫ばず、声をあげず。…」(イザヤ42・2) 聖霊は、優しく静かにささやかれます。神に向かって自分自身を深く静まらせる魂だけが、聖霊の御声と導きを受け取ることができるのです。

私たちが不必要なまでに、この世の忙しさ、この世の心配事、この世の楽しみ、この世の読み物、この世の政治などに熱中するようになるなら、聖霊は私たちを導くことができません。私たちの神への働きが、私たち自身の知恵と力によって騒々しくなされる時には、御霊の声を聴くことはできません。聖霊に導かれる人は、弱くて素直な人であり、へりくだって喜んで教えられようとする人であり、御霊の導きを受けとめる人です。毎朝、昼間もしばしば、神の前に静まり、こう言いましょう。

「主イエスさま、私は何も知りません。私は今あなたの御前に

静まります。御霊によって私を導いてください。」と。

まことに私は、自分のたましいを和らげ、静めました。乳離れした子が母親の前にいるように、私のたましいは乳離れした子のように御前におります。
(詩131・2)

しかし主は、その聖なる宮におられる。全地よ。その御前に静まれ。
(ハバ2・20)

すると彼は、私に答えてこう言った。「これは、ゼルバベルへの主のことばだ。『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって。』と万軍の主は仰せられる。」
(ゼカ4・6)

必要なことの第三は、「従順でありなさい。」ということです。あなたの内なる声を聴き、その声が告げることを行いなさい。毎日あなたの心を神のみことばで満たしなさい。御霊が、神のみことばが語っていることに心を留めさせるなら、それを行いなさい。そうするなら、あなたはより深い教えを受け取ることができるようになります。聖霊の全き祝福は、従順な人に約束されています。

もしあなたがたがわたしを愛するなら、あなたがたはわたしの戒めを守るはずです。わたしは父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。

す。その助け主がいつまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。
(ヨハ14・15、16)

私たちはそのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊もそのことの証人です。
(使5・32)

新しいキリスト者の方々。あなたが、聖霊の神殿であることを知りなさい。そして、神に喜ばれているという証しをいただいて神の子どもとして歩むことができるのは、ただ御霊の導きに日々従うことを通してであることを知りなさい。

祈り

尊い救い主。この学びを私の心に深く刻みつけてください。聖霊は私の内におられます。聖霊の導きは日々どこに在っても、私に必要不可欠です。静まって聖霊を待ち望まない時には、みことばの中で語っておられる聖霊の御声を聞くことができます。主よ。聖い用心深さがわたしを見張り、絶えず聖霊の生徒として歩むことができますように。

課題

一、「私が(信仰に)立ち続けられることを、私が守られることとを、私が成長できることを、どうやったら知ることができる

だろうか？」と、しばしば尋ねられます。この質問は聖霊を侮辱することです。こういう質問することは、あなたが聖霊を知らないことを、つまり聖霊に信頼していないことを示しています。この質問はあなたが、天よりの導き手である聖霊の中にはなく自分自身の中に、忍耐力の秘訣を探し求めていることを示しています。

二、私が瞬間毎に呼吸する空気があるように、聖霊は休むことなく私の魂の奥深くで、いのちを保っていただきます。聖霊は、ご自身の働きを止められることはありません。

三、私たちが聖霊を受けた時から、私たちのなすべきことは、聖霊の働きを認めて干渉することをせず、信頼して聖霊に働いていただくことです。

四、聖霊のわざは、初めから終わりまで私たちにイエスさまを現し、私たちがイエスさまの内に留まるようにすることです。自分の中で聖霊が働かれるのをコントロールしようとするやいなや、私たちは聖霊の働きを妨げてしまいます。私たちがイエスさまを見上げようとしなない時には、聖霊は働くことができます。

五、御父の御声、良き羊飼いの御声、聖霊の御声はとても穏やかなのです。私たちは、他のさまざまな声、すなわち世と世の友人の情報や彼らの考え、また自分自身の自我や願いなどに対して耳を塞ぐことを学ばなければなりません。そうすれば私たちは、聖霊の御声を聞き分けることができますようになります。

私たちの意志と思いを神にささげるために、またイエスさまを見上げつつ聖霊の御声に対して耳と心を開き続けるために、私たちはしばしば静まって祈り、ひたすら静まりましょう。

24 聖霊を悲しませること

神の聖霊を悲しませてはいけません。あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。

(エペ4・30)

神の子どもが証印を押されている―すなわち神の所有物として取り分けられ、証印され、印づけられているのは、聖霊によるのです。この証印は、一度きりで終わる固定した外面的なものではありません。毎日の生活の中で、魂が力をもち、強い信仰の確信が与えられるのは、それが私たちの内に内住しておられる聖霊のいのちを通して経験される時のみです。それゆえに、私たちは聖霊を悲しませないようによく注意しなければなりません。聖霊の内へのみ、私たちは喜びに満ちた確信をもって、神の子とされている祝福に満たされることができなのです。

私たちを導かれるのは、私たちが神の子どもであることを、私たちの霊と共に証ししてくださるのと同じ聖霊です。聖霊を悲しませるのはどのような時でしょうか？とりわけ罪に負けてしまう時です。聖霊は、私たちを聖めて―血潮はひとつひとつすべての罪を白くします―神の聖いいのちで、すなわち神ご自身で私たちを満たすために与えられているのです。罪は神を悲しませます。

かたくなで、心と耳とに割礼を受けていない人たち。あなたがたは、先祖たちと同様に、いつも聖霊に逆らっているのです。

(使7・51)

この理由で、神のみことばは、中でも、私たちが用心すべき罪について、名前を挙げて述べています。ここでは、この学びに関連してパウロが述べている四つの大きな罪だけに注目してみましょう。

第一の罪は偽りです。偽りほど聖書の中で悪魔に関連する罪としてよく挙げられている罪はありません。偽りは地獄から出たものであり、やがて地獄に行き着くものです。神は真理の神です。聖霊は、偽る男や女の中にご自身の祝福の働きを続けることは決してできません。もしそのようなことがあるとしたら、それは不真実であって、神の真実を損なうことになります。新しいキリスト者の方々。偽りと偽りを言う者について、神のみことばが何と言っているかを注意深く吟味しましょう。文字通り、真理以外は何も口にしないように注意しましょう。神の聖霊を悲しませないようにしましょう。

あなたは偽りを言う者どもを滅ぼされます。主は血を流す者と欺く者とを忌みきらわれます。

(詩5・6)

あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。

彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。 (ヨハ8・44)

第二の罪は怒りです。「無慈悲、憤り、怒り、叫び、そしりなどを、いっさいの悪意と共に、みな捨て去りなさい。」(コロ3・8) 性急さ、怒りやすい性格、短気の罪などは、偽りと同様に、キリスト者に恵みが増し加わるのを妨げる最もよく見られる罪です。

しかし、わたしはあなたがたに言います。兄弟に向かって腹を立てる者は、だれでもさばきを受けなければなりません。兄弟に向かって「能なし。」と言うような者は、最高議会に引き渡されます。また、「ばか者。」と言うような者は燃えるゲヘナに投げ込まれます。 (マタ5・22)

あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるわけではありませんか。 (1コリ3・3)

だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行なうよう努めなさい。 (1テサ5・15)

キリスト者の友よ。すべての怒りをあなたから取り除きましよう。それは、聖霊を悲しませてはならないという命令に従うことになるのです。聖霊、すなわち神の偉大な力があなたの内に住んでおられることを信じましょう。聖霊を通してイエスさまがあなたを守ってくださることを信じて、内住の御霊に自分を絶えずゆだねましょう。聖霊は、あなたを心優しい人にしてくださいます。私は怒りを克服するために与えられる神の力とイエスさまの力と聖霊の力を信じます。

わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすればたましいに安らぎが来ます。 (マタ11・29)

兄弟たちよ。もしだれかがあやまちに陥ったなら、御霊の人であるあなたがたは、柔和な心でその人を正してあげなさい。また、自分自身も誘惑に陥らないように気をつけなさい。 (ガラ6・1)

また、両者を一つのからだとして、十字架によって神と和解させるためなのです。敵意は十字架によって葬り去られました。それからキリストは来られて、遠くにいたあなたがたに平和を宣べ、近くにいた人たちにも平和を宣べられました。 (エペ2・16、17)

罪を告白するならば、神はあなたをその罪から聖めてくださいます。神の聖霊を悲しませてはなりません。

第三の罪は盗みです。私たちの隣人の財産や所有物に対して犯すあらゆる罪や、取引におけるすべての偽りや不誠実の罪であり、それは私たちが隣人に害を与え、他者を犠牲にしてまで自分の益を求めることです。キリストの律法は愛であり、この律法は隣人の益を自分の益と同じように求めるのです。利己主義と表裏一体の金銭や所有物への愛着は、聖霊の導きを受けることと両立できません。キリスト者は、正直で公正で、自分と同じように隣人を愛する人として評判が良くなければなりません。

自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。
(ルカ6・31)

愛は隣人に対して害を与えません。それゆえ、愛は律法を全うします。
(ロマ13・10)

また、このようなことで、兄弟を踏みつけたり、欺いたりしないことです。なぜなら、主はこれらすべてのことについて正しくさばかれるからです。これは、私たちが前もってあなたがたに話し、きびしく警告しておいたところです。

(1テサ4・6)

それから(第四の罪として)使徒は、「悪いことばを、いつさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。(エ

ペ4・29)」と言っています。神の子どもの舌も神のものです。話の仕方によって、その人が神の子どもであることが人々に分かるようにすべきです。私たちが話すことで、聖霊を悲しませもするし喜ばせもするのです。聖別された舌は、その人の隣人にだけでなく自分自身にとっても祝福です。みだらな話や、くだらないことばや、愚かな冗談などは聖霊を悲しませます。それらは、聖霊があなたを聖め慰めて心が神の愛で満たされることを不可能にします。

わたしはあなたがたに、こう言います。人はその口にするあらゆるむだなことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。
(マタ12・36)

私たちは、舌をもって、主であり父である方をほめたたえ、同じ舌をもって、神にかたどって造られた人をのろいます。賛美とのろいが同じ口から出て来るのです。私の兄弟たち。このようなことは、あってはなりません。
(ヤコ3・9、10)

新しいキリスト者の方々。このような罪、あるいはその他の罪によっても、あなたが神の聖霊を悲しませることがないように、私は心から祈ります。そのような罪を犯してしまったのなら、それを告白しましょう。そうすれば神はあなたをそれらの罪からきよめてくださいます。聖霊によって、あなたには証印が押されているのです。もしあなたが揺らぐことなく信仰の喜

びの中を歩もうとするのなら、次のみことばを聞きなさい。
「神の聖霊を悲しませてはいけません。」

祈り

主なる神様。天のお父様。あなたが私に示してください。この驚くばかりの恵みを理解させてくださるよう祈ります。あなたはその大いなる恵みによって、あなたの聖霊を私の心の中にお与えになっておられます。主よこの信仰を、私がすべての罪から洗いきよめられるための論拠と力としてくださいますように。聖なるイエスさま。私の思い、ことば、行動のすべてにおいて、あなたの御姿が現われるように私を聖めてください。アーメン。

課題

一、「聖霊を悲しませてはなりません。」このみことばに対するキリスト者の姿勢は、彼が信仰生活を理解しているかどうかをためす試金石です。

ある人々にとってこのことばは、恐怖です。一人の父親が、新しい家庭教師と一緒に旅に出かける自分の子どもを列車のところで連れて行きました。その娘が駅を発つ前に父親はこう言いました。「お前の先生はとても神経質で、すぐに誤解すると聞いている。先生を悲しませることは何一つしないように気をつけなさい。」かわいそうに、この娘は楽しくない旅をするこ

とになってしまいました。いつ先生に誤解されるかと不安でびくびくし通しでした。

これが多くの人が聖霊に対して抱いている見方です。満足させることが難しく、私たちの弱さを思いやってはくれず、私たちが苦心して何かをしても、それが完璧でなければ不機嫌になるお方だと思うのです。

二、もう一人の父親が、家をしばらく離れて旅に出る娘を駅に連れて来ました。けれどもこの娘は、心から愛する母親と一緒にだったのです。

「いい子にしているのだよ。」父親は言いました。「お母さんが喜ぶことは何でもするのだよ。そうでないと、お母さんも私も悲しい思いをするのだからね。」

「もちろんよ、パパ。」その娘はとても嬉しそうに答えました。彼女は母親と一緒にいることがあまりにも嬉しかったので、母親に喜んでもらえることならどんなことでもしたいと思っていました。

ある神の子どもたちは、聖霊が優しく愛情深く助けて下さるお方で、慰め主また良いお方であることをよく知っているのので、「神の聖霊を悲しませてはいけません。」というみことばは、彼らにとっては優しく勇気づける力を持つのです。聖霊を悲しませてしまうという私たちの恐れがいつも、信頼に満ちた愛から来る、優しい子どもらしい恐れでありますように。

25 肉と聖霊

さて、兄弟たちよ。私は、あなたがたに向かって、御霊に属する人に対するようには話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。

(1コリ3・1)

なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

けれども、もし神の御霊があなたがたのうちに住んでおられるなら、あなたがたは肉の中にはなく、御霊の中にいるのです。キリストの御霊を持たない人は、キリストのものではありません。

(ロマ8・2、9)

しかし、御霊によって導かれるなら、あなたがたは律法の下にはいません。

もし私たちが御霊によって生きるのなら、御霊に導かれて、進もうではありませんか。

(ガラ5・18、25)

新しいキリスト者が肉と聖霊との違いを知ることは、とても重要です。キリスト者の中に争いやねたみがあるかぎり、神のみことばは、その人を肉に属する人と呼んでいます。彼は善を行おうとするのですが、することができず、自分のしたくないことをしてしまうのです。その人がまだ聖霊の力ではなく、自分の力で努力しているからです。

あなたがたは、まだ肉に属しているからです。あなたがたの間にねたみや争いがあることからすれば、あなたがたは肉に属しているではありませんか。そして、ただの人のように歩んでいるわけではありませんか。

(1コリ3・3)

もし互いにかみ合ったり、食い合ったりしているなら、お互いの間で減ぼされてしまいます。気をつけなさい。

互いにいどみ合ったり、そねみ合ったりして、虚栄に走ることはないようにしましょう。

(ガラ5・15、26)

肉は律法のもとに留まって、律法に従おうとします。しかし肉によっては律法は無力であり、善をしようと努力しても無益なことなのです。それが次の言葉です。

「私は罪ある人間であり、売られて罪の下にある者です。

：私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです。

(ロマ7・14、18)

それは、わたしが彼らの先祖たちの手を引いて、彼らをエジプトの地から導き出した日に彼らと結んだ契約のようなものではない。彼らがわたしの契約を守り通さないので、わたしも、彼らを顧みなかったと、主は言われる。

神が新しい契約と言われたときには、初めのものを古いとされたのです。年を経て古びたものは、すぐに消えて行きます。

(ヘブ8・9、13)

神が信仰者をこのような状態に止め置かれることはありません。みことばは言います。「神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです。」(ペリ2・13)」と。キリスト者は御霊にあつて生きるだけでなく、御霊によつて歩むべきです。霊的な人となり、全く聖霊の導きのもとに留まらなければなりません。

神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子どもです。

(ロマ8・14)

御霊を受けている人は、すべてのことをわきまえますが、自分はだれによつてもわきまえられません。(1コリ2・15)

彼はもはや、自分がしたくないことをすることは無いでしょう。彼はもはや、ローマ書七章の状態には留まらないでしょう。―新しく生まれた幼子として、律法を満たすことを求めつつ。―今や彼は、力を与えるどころか死をもたらす「これをせよ。」と命令する律法から聖霊を通して自由にされた者として、ローマ書八章に生きるでしょう。彼は「古い文字にはよらず、新しい御霊によつて(ロマ7・6)」歩むのです。

しかし、今は、私たちは自分を捕えていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によつて仕えているのです。(ロマ7・6)

なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

もし肉に従つて生きるなら、あなたがたは死ぬのです。しかし、もし御霊によつて、からだの行ないを殺すなら、あなたがたは生きるのです。(ロマ8・2、13)

御霊によつて始まったにもかかわらず、肉で終わるキリスト者がいます。彼らは回心し、御霊によつて新しく生まれました。しかし無意識の内に、罪に打ち勝つようにがんばり、最善を尽くそうとする努力によつて聖くなるうとする生活に陥つてしまします。彼らはこういう努力をする中で、自分たちを助けてくれるように神に求めます。そしてそれが信仰であると考えます。彼らは「私は、私のうち、すなわち、私の肉のうちに善が住んでいないのを知っています。(ロマ7・18)」という言葉の意味を理解していません。そして神のみこころをすべて行ない、御霊によつて行うために、自分の努力を止めるべきであることを理解していません。

新しいキリスト者の方々。新生した後であっても、正にあなたが今あるように、あなたについて「私は罪ある人間であり、売られて罪の下にある者です。(ロマ7・14)」と言われていることを学んでください。もはや、最善を尽くそうとすること

で、神に祈ること、神の助けを信じようとすることでがんばってはいけません。そうではなくて、「キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、私を解放しました。」(ロマ8・2)と言うことを学んでください。あなたの毎日の働きを、あなたの中で御霊に働いていただくこととし、御霊によって歩みなさい。そうすればあなたは、「私は、自分でいたいと思う善を行なわない(ロマ7・19)」とつぶやく生活から、「神があなただのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださる(ピリピ2・13)」信仰の生活へと救い出されることでしょう。

祈り

主なる神様。私の内、すなわち私の肉の内には何の良いものも無いことを、心から認めることができるように教えてください。私が自分自身の力であなたに仕えたりあなたをお喜ばせることができるなどという、どんな考えも抱かないように私を教えてください。御霊は慰め主であり、無力さゆえのあらゆる不安や恐れから私を解放してください。ご自身が私の内にキリストの力を働かせるようにしてください。理解できるように教えてください。アーメン。

課題

一、肉と聖霊の争いを理解するためには、ローマ人への手紙第七章と第八章の関係を明確に把握することに努めなければなりません。ローマ人への手紙第七章六節でパウロは二通りの神への仕え方について語っています。一つは古い文字(律法)による仕え方であり、もう一つは聖霊による新しい仕え方です。ローマ七章十四、十六節で文字による仕え方を記し、ローマ八章一節、十六節で聖霊による仕え方を記しています。このことは、七章では聖霊について一度しか言及していないのに、律法については二十回以上言及しており、八章一節、十六節では聖霊について十六回言及していることから明らかです。

ローマ人への手紙第七章では、回心した魂が肉にあり、その人は律法を行ないたいという願いはあるのにそれを行なう力がなく、「罪の律法のとりこ」(ロマ7・23)となっているのを見ます。ローマ人への手紙第八章では、その人が「キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、私を解放した。」(ロマ8・1、2)と言うのを聞きます。

ローマ人への手紙第七章では、新生してはいるが、信仰によって聖霊の力を体験するに至っていないキリスト者の状態が描かれ、ローマ八章では、神の霊が実際に与える、罪の力から自由にされた人の生活が描かれています。

二、神に仕える二通りの方法の違いを明確にするために、それらが特にはつきりと表現されている箇所を上げてみましょう。

それらを注意深く比較してみてください。それらの理解を助けてくださるように聖霊に求めてください。以下の聖句を学び、どのように神に仕えるべきか、あるいはどうしてはならないかという教えを深く心に刻んで下さい。

かえって人目に隠れたユダヤ人がユダヤ人であり、文字ではなく、御霊による、心の割礼こそ割礼です。その誉れは、人からではなく、神から来るものです。
(ロマ2・29)

何の働きもない者が、不敬虔な者を義と認めてくださる方を信じるなら、その信仰が義とみなされるのです。(ロマ4・5)

というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にあるからです。
(ロマ6・14)

しかし、今は、私たちは自分を捕えていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。
(ロマ7・6)

私たちは、律法が霊的なものであることを知っています。しかし、私は罪ある人間であり、売られて罪の下にある者です。

(ロマ7・14)

あなたがたは、人を再び恐怖に陥れるような、奴隷の霊を受けたのではなく、子としてくださる御霊を受けたのです。私たちは御霊によって、「アバ、父。」と呼びます。(ロマ8・15)

モーセは、律法による義を行なう人は、その義によって生きる、と書いています。しかし、信仰による義はこう言います。「あなたは心の中で、だれが天に上るだろうか、と言ってはいいけない。」それはキリストを引き降ろすことです。また、「だれが地の奥底に下るだろうか、と言ってはいいけない。」それはキリストを死者の中から引き上げることです。では、どう言っていますか。「みことばはあなたの近くにある。あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは私たちの宣べ伝えている信仰のことばのことです。
(ロマ10・5～8)

もし恵みによるのであれば、もはや行ないによるものではありません。もしそうでなかったら、恵みが恵みでなくなります。

(ロマ11・6)

さて、兄弟たちよ。私は、あなたがたに向かって、御霊に属する人に対するように話すことができないで、肉に属する人、キリストにある幼子に対するように話しました。

(1コリ3・1)

私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きていくのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。

(ガラ2・20)

ところが、律法によって神の前に義と認められる者が、だれもないということは明らかです。「義人は信仰によって生きる。」のだからです。しかし律法は、「信仰による。」ではありません。「律法を行なう者はこの律法によって生きる。」のです。

(ガラ3・11、12)

なぜなら、相続がもし律法によるのなら、もはや約束によるのではないからです。ところが、神は約束を通してアブラハムに相続の恵みを下さったのです。

(ガラ3・18)

ですから、あなたがたはもはや奴隷ではなく、子です。子ならば、神による相続人です。

(ガラ4・7)

こういうわけで、兄弟たちよ。私たちは奴隷の女の子どもではなく、自由の女の子どもです。

(ガラ4・31)

私は言います。御霊によって歩みなさい。そうすれば、決して肉の欲望を満足させるようなことはありません。

(ガラ5・16)

しかし、御霊によって導かれるなら、あなたがたは律法の下にはいません。

(ガラ5・18)

神の御霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。

(ピリ3・3)

その祭司は、肉についての戒めである律法にはよらないで、朽ちることのない、いのちの力によって祭司となったのです。

(ヘブ7・16)

三、愛するキリスト者よ。あなたが主イエスさまから聖霊を受けたのは、あなたの内にキリストとキリストのいのちを現わし、罪の体の働きを克服するためでした。聖霊に満たされるために熱心に祈りましょう。聖霊はあなたの慰め主また教師としてあなたの内におられ、聖霊を通してすべてが成就されるといふ喜ばしい信仰によって生活しましょう。次のみことばを暗記して心と唇に住まわせましょう。「神の御霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。」(ピリ3・3)

26 信仰による生活

見よ。心のまっすぐでない者は心高ぶる。しかし、正しい人はその信仰によって生きる。
(ハバ2・4)

しかし、今は、私たちは…律法…から解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。
(ロマ7・6)

もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。いま私が、この世に生きているのは、私を愛し私のためにご自身をお捨てになった神の御子を信じる信仰によっているのです。
(ガラ2・20)

ハバク書このみことばは、信仰のみによる、キリストにある救いの表明として、新約聖書の中で三回引用されています。

なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる。」と書いてあるとおりです。
(ロマ1・17)

ところが、律法によって神の前に義と認められる者が、だれもないということは明らかです。「義人は信仰によって生きる。」のだからです。
(ガラ3・11)

わたしの義人は信仰によって生きる。もし、恐れ退くなら、わたしのこころは彼を喜ばない。
(ヘブ10・38)

しかし、このみことばは、「人は回心した時に信仰によって義とされる。」ということだけを意味していると、しばしば誤解されます。このみことばはそのことも含みますが、それ以上のことを表しています。義人は信仰によって生きるのです。義人(キリスト者)の全生活は、瞬間瞬間ごとに信仰によるのです。

もしひとりの人の違反により、ひとりによって死が支配するようになったとすれば、なおさらのこと、恵みと義の賜物とを豊かに受けている人々は、ひとりの人イエス・キリストにより、いのちにあつて支配するのです。

それは、罪が死によって支配したように、恵みが、私たちの主イエス・キリストにより、義の賜物によって支配し、永遠のいのちを得させるためなのです。
(ロマ5・17、21)

そのあかしとは、神が私たちに永遠のいのちを与えられたということ、そしてこのいのちが御子のうちにあるということです。御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。
(1ヨハ5・11、12)

信仰によって与えられる恵みと、行ないを要求する律法の間には、神がそのみことばで示されている際立った違いがあること

を私たちは知っています。これは一般に義認についてのことと理解されています。しかし両者の違いは、全生涯の聖別と同様に関係しているのです。義人は信仰のみによって生きる、つまり義人は神の御旨にそって生きる力を持つのです。回心の時には、人は自分の内には善いものは何もないことと、無力で不敬虔な者として恵みを受けねばならないことを理解する必要があります。ですから人は信仰者として、善を行なうための力を絶えず上から受け取らなければなりません。

なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです。

(ロマ8・2)

彼らは、信仰によって、国々を征服し、正しいことを行ない、約束のものを得、ししの口をふさぎ、火の勢いを消し、剣の刃をのがれ、弱い者なのに強くされ、戦いの勇士となり、他国の陣営を陥れました。

(ヘブ11・33、34)

従ってあなたの務めは、毎朝毎時刻、天を見上げ、信じ、あなたの力を上から、天におられるあなたの主から受け取ることでなければなりません。

『私は自分できることをするのではなく、主が私に事を為す力を与えてくださるよう願います。』

いいえそうではありません。すでに死んでいる者として、文字通り自分では何もできない者として、そして自分のいのちが天

におられる主の中にある者として、私の内に力強く働こうとされる主に全面的に頼るべきなのです。

ほんとうに、自分の心の中で死を覚悟しました。これは、もはや自分自身を頼まず、死者をよみがえらせてくださる神により頼む者となるためでした。

(2コリ1・9)

このために、私もまた、自分のうちに力強く働くキリストの力によって、労苦しながら奮闘しています。

(コロ1・29)

このキリストのうちに、知恵と知識との宝がすべて隠されているのです。

(コロ2・3)

自分にとって最大の危険は、律法の下に戻ってしまい、肉にあつて自分自身の力で神に仕えようとがんばることであることを理解しているキリスト者は幸いです。もはや要求するだけで、肉のために無力となっている律法の下ではなく、与えられているものを単純に受け取ることだけを求められる恵みの下にいることを認識している人は幸いです。聖霊が、キリストの内にあるすべてのものを自分に移してくださいという約束を、自分のものとする人は幸いです。信仰によって生きることがどういうことであるか、そして古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えることがどういうことであるかを理解しているなら、その人は幸いです。

私の兄弟たちよ。それと同じように、あなたがたも、キリストのからだによって、律法に対しては死んでいるのです。それは、あなたがたが他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と結ばれて、神のために実を結ぶようになるためです。私たちが肉にあったときは、律法による数々の罪の欲情が私たちのからだの中に働いていて、死のために実を結びました。しかし、今は、私たちは自分を捕えていた律法に対して死んだので、それから解放され、その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えているのです。
(ロマ7・4～6)

神の御霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇り、人間的なものを頼みにしない私たちのほうこそ、割礼の者なのです。

(ピリ3・3)

パウロのことばを、私たち自身のものとしましょう。それは私たちに、まことの信仰生活を提供しているからです。

「私はキリストとともに十字架につけられました。(ガラテヤ2・20)」私の肉―私の罪だけでなく私の肉、すなわち私に属するすべてのもの、私自身の生き方と願い、私自身の力と働き―を、私は死に引き渡してしまったのです。もはや私は自分自身を生きたりしません。できないのです。生きること、何をするかもしれません。

わたしにとどまりなさい。わたしも、あなたがたの中にとどまります。技がぶどうの木についていなければ、枝だけでは実を

結ぶことができません。同様にあなたがたも、わたしにとどまっていなければ、実を結ぶことはできません。わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。
(ヨハ15・4、5)

しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現われるからである。」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです。
(2コリ12・9、10)

キリストが、私の内に住んでおられます。キリストが聖霊を通して、私の力となられ、私が生きるべき生き方をするように教え強くしてください。今私が肉にあって生きるそのいのちを、キリストを信じる信仰によって生きるのです。私のなすべき重要な働きは、キリストが私の中で願いを起こさせ、それを成し遂げさせてくださると信頼することです。新しいキリスト者の方々。この信仰の生活があなたの信仰でありますように。

祈り

私の主イエスさま。あなたは私のいのちです。そうです。私のいのちです。あなたは私の内に住んでおられ、喜んで私の生活をあなたの監督の下に置いてくださいます。私の全生涯が、日々喜びにあふれた信頼となり、あなたが私の中ですべての働きを行ってくださいる経験となりますように。

尊い主よ。この信仰の生活に私は自分を委ねます。そうです。私を教えてください、あなたが自身を私の内に豊かに現してくださるために、あなたに私自身を委ねます。

課題

一、次の表現の誤りがわかりますか？

「主が私を助けてくださるなら…」

「主は私を助けなければならぬ。」

私たちは当たり前のこととしてこのように話します。というのは、私たちにはある程度の力があり、主がそれを増し加えてくださるかと考えているからです。けれども新約聖書は、人の魂に与えられる神の恵みについて、「助ける」という表現を一度も使っていません。私たちは全く無力です。私たちが弱いので神が手を貸してくれるということではないのです。そうではなく、神は全く無力な私たちの内に、ご自身のいのちと力を与えられるのです。このことを見出した人は、信仰のみによって生きることを学ぶでしょう。

二、「信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。（ヘブル11・6）」「信仰から出ていないことは、みな罪です。（ロマ14・23）」神の御霊のこのようなみことばは、私たちの生活におけるあらゆる行ないと対処とが、いかに信仰で満ちたものでなければならぬかを、私たちに教えています。

三、私たちが毎日最初にするべきことは、イエスさまを自分のいのちとして改めて信じることであり、主が私たちの中に住まれ、わたしたちのために、また私たちの中ですべてをなしてくださることを信じることです。この信仰が、私たちの魂の終日の在り方であるべきです。この信仰は、イエスさまご自身と交わり、主に近く歩むこと無しには、維持することができません。

四、この信仰は、イエスさまと私たちキリスト者が互いに自分を明け渡しあう時に力を持ちます。イエスさまがまず、ご自身のすべてを私たちに与えてくださいました。次に私たちキリスト者が、イエスさまのものとされるために、そしてイエスさまによって導かれるために、自分自身をすっかり明け渡します。その時魂は、イエスさまがそれらすべてのことをしてくださるだろうかなどと、疑い始めることはできません。